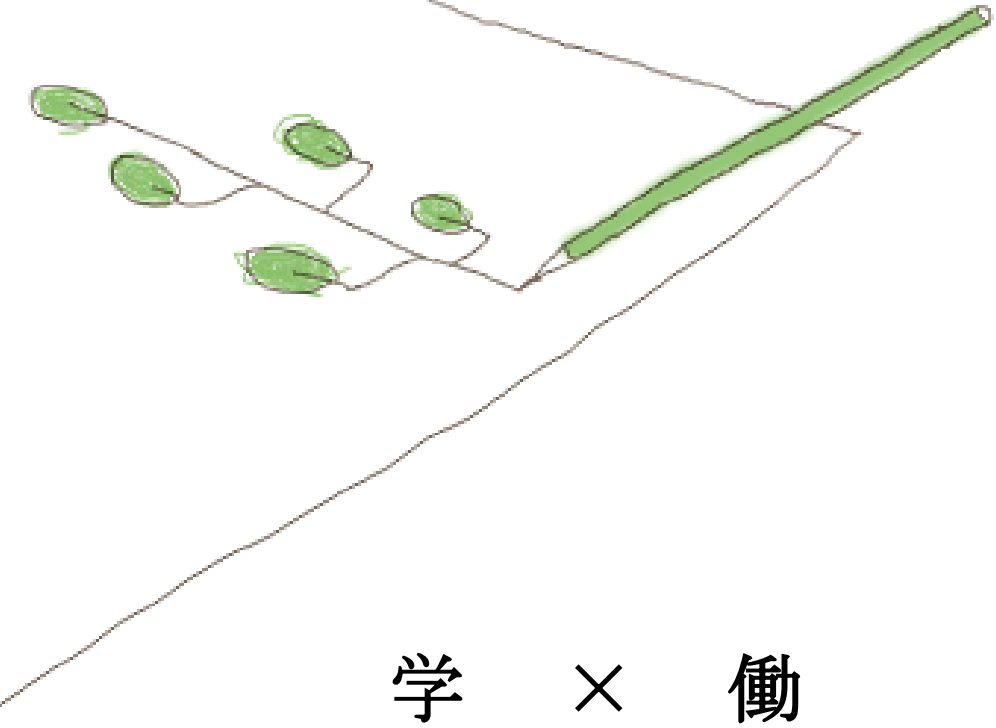


学　×　働
＝　あなたの未来

～10代のうちに知っておくべきこと～

◇目次◇

はじめに　3

第一章「見よう！あなたの７年後」

◆ ７年後のあなたは？　5
◆ 悲惨な開催後　8
◆ 社会は保証してくれない　11

第二章「探そう！自分の働き方」

◆ 働くってどういうこと？　15
◆ 仕事の正規雇用と非正規雇用って何？　18
◆ 正規雇用とキャリア教育　37

第三章「学ぼう！学校とネット社会」

◆ 学校はなぜ行くの？教育社会って？　48
◆ 学校が抱えるいじめと不登校の問題　55
◆ 中学生が気軽に使えるようになったインターネット　63
◆ 他人事じゃない！ネットトラブル　69
◆ 人と繋がるネット社会　72
◆ これからを生きていくあなたへ　76

あとがき　81
参考文献　83

はじめに

みなさんはどんな社会に生きていますか。その中でどんなことをしていますか。また、これからどんなことをしたいですか。本書は中学生と高校生に向けて、自分の将来の「仕事」、そして今生きている「学校」という社会について深く知って欲しいという目的で作られました。

みなさんの未来について考えるきっかけになれば幸いです。

第一章

「見よう！あなたの７年後」

7年後のあなたは？

東京でオリンピックが開催されるであろう2020年。その時、あなたはどうしているでしょうか。大学に行って勉強しているでしょうか。それとも、社会に出て働いているでしょうか。もしかすると、あなた自身がオリンピックの選手になっているかもしれません。

その可能性はともかく、あなたの知っている人がオリンピックに出場する可能性は十分にあります。スポーツが得意な友達がいたら、今から仲良くなっておくのもいいでしょう。

東京でオリンピックが行われるのはこれで二度目になります。一度目の東京オリンピックは、1964年に開催されました。授業で習ったことがあるかもしれませんが、この時、「オリンピック景気」と呼ばれる好景気が起こりました。好景気とは、経済活動が活発になり、お金の回りが良くなることです。

どうしてオリンピックを開催するだけで多くのお金が動くのでしょうか。ぴんと来ない人もいると思うので、順を追って見ていきましょう。

まず、オリンピックを行うためには、選手が活躍する会場を作る必要があります。オリンピック期間中の来場者数は、1,000万人になると予想されています。前回の東京オリンピックの会場であった、国立競技場の収容人数（会場に入れる人数）は約5万人です。もちろん、この会場をそのまま使うわけにはいきません。多くの人が楽しむためにも、大きく、

使いやすい会場を立て直した方が良いでしょう。当然、宿泊施設も必要になります。

しかし、ただ何も考えずに作ればそれで良いのでしょうか。世界の人たちの好みや、生活、大事にしているものはもちろん違います。各設備、家具、日用品、そして食事にも気をつかう必要があります。日本人だけが使いやすい空間であっては、それは「おもてなし」とは呼べませんからね。

電車やバスなどの、公共交通機関の整理も忘れてはいけません。リニアモーターカーの建設が間に合うか、という問題に気を取られがちですが、身近な乗り物に関する課題も山積みです。これからは、道路や線路の点検だけではなく、地名や駅名の表記の仕方まで見直していかなくてはならないでしょう。

世界中からいろいろな人が来るのであれば、他の国の言葉が話せる人、会場に異常がないか警備をする人も必要です。

また、会場へ足を運んだ人ならば、オリンピック関連の商品はもちろん、東京独自のお土産を買っていきたくなるでしょう。日本を連想させるものであればあるほど、外国から来た人たちの反応も良いかもしれません。

お土産は物だけではありません。日本での思い出を作るために、しばらくは、スカイツリーや遊園地などの観光地も賑わうことでしょう。

儲かるのは東京だけ？　そんなことはありません。今や、現地へ行かなくてもオリンピックを見ることはできます。家やお店でくつろぎながら、選手を応援するのもいいですね。飲み物、食べ物は日本

中で飛ぶように売れるでしょう。開催時期を考えれば、テレビやパソコンだけではなく、エアコンや扇風機を買い変える必要だって出てくるかもしれません。

こうやって考えていくと、これからは多くの会社が忙しくなり、多くの人に仕事が回り、多くのお金が動くことが予想できます。オリンピックを行うことで多くのお金が動く理由は、「その成功のために今あるものを見直し、より良いものを作っていくようになるから」です。

現に、日本にテレビや新幹線が普及したきっかけは、1964年のオリンピックだと言われています。不景気な今の世の中も、オリンピックがきっかけで良い方へ向かうのかもしれないと考えれば、国中が頑張ってオリンピック招致に励んだのも頷けます。

しかし、これはあくまで、オリンピックが終了するまでの話です。終わった後のことを考えてみてください。日本はどうなるのでしょうか。会社はどうなるのでしょうか。作った建物はどうなるのでしょうか。そして、雇われた多くの人たちはどうなるのでしょうか。

悲惨な開催後

華やかなイメージが強いオリンピックですが、悲惨な一面も持っています。

2008年に行われた北京オリンピックの跡地がその例です。ほとんどの会場が、今はもう使用されていません。綺麗だった壁はボロボロ、看板は赤黒くさびていて、草は伸び放題。まるで廃墟のような状態になっています。通常なら、オリンピック会場は開催後も公園や体育館として利用することになっているのですが、ここはどうもうまくいっていないようです。

どうしてこうなるまで放っておいたのでしょうか。答えは簡単です。大きな会場を綺麗に管理していくためには、莫大な維持費がかかるからです。日本のオリンピック公園や、国立体育館のように、使用する人が多ければ維持することも難しくはないのですが、使い道がなければ誰も管理したがりません。撤去するにも、新しい施設を作るのにもお金がかかるので、ますます悲惨になっていくという悪循環に陥っています。

こういうことは、建物だけではなく、人にも同じことが言えます。ここからは、オリンピックに携わっていた人の未来を考えてみましょう。

オリンピック会場の建設、開催地の警備、選手間の通訳、グッズ販売。これらの仕事も、オリンピックが終わってしまえば全てなくなります。

もともと働いていた場所がある人であれば、そこに戻ればいいだけの話です。しかし、戻る場所がな

い人の方が多いでしょう。胸の痛む話ではありますが、オリンピックに関わるほとんどの人が、仕事をなくすことが想定できます。今までやっていた仕事が突然なくなるというのは、精神的にも物理的にもダメージを受ける出来事です。

しかし、ショックを受けている場合ではありません。オリンピックが終わったということは、仕事の募集は今までよりも減ってしまいます。さらに追い打ちをかければ、国や会社はいちいち新しく働ける場所なんて用意しません。なぜなら、そういうことをするにもお金がかかるからです。

何が言いたいかというと、「オリンピックが終わった後に働き口を見つけることは非常に難しく、そのうえ誰も助けてはくれないので、自分の力で見つけるしかない」のです。なんとか別の働き口が見つかれば良いのですが、見つからない期間は、その人にお金は一円も入ってきません。

もしも、仕事を見つけるのに時間がかかったら？非常に長い期間見つからなかったら？　その人は、誰かに助けてもらわなくては生きていけなくなるでしょう。もし、誰も助けてくれなかった場合は、その人の命がなくなってしまうこともあるかもしれません。

ではもう一度、北京オリンピックの跡地の話を思い出してください。オリンピックに使用されたものの、うまく活躍できなかった建物は、やがてボロボロになってしまいました。開催後も再利用されることになってはいたのですが、結果としてその保証はなかったのです。人だって同じです。オリンピック

に関わった全ての人に、開催後も働き口が与えられるという保証はありません。

これはあまり想像したくないことなのですが、これから東京オリンピックに関わるであろう多くの人たちも、やがて活躍の場を与えられなくなり、いつかはボロボロになっていくのかもしれません。

社会は保証してくれない

オリンピック開催が決定したことにより、これからは非正規雇用やボランティアスタッフの募集が激増すると言われています。

非正規雇用とは、契約社員、派遣社員、アルバイトなどの、正社員（その会社でずっと働き続ける人）ではない人のことです。

オリンピックによっていくら利益が出たとしても、準備の段階でお金がかかっては話になりません。実際に、予想していた以上に準備にお金がかかったせいで、オリンピックの経済効果がほとんどなかったという国もあります。

様々な費用のなかでも、人件費は特に問題視されています。人件費とは、人を雇った時にかかるお金のことです。分かりやすくいえば、社員に払う給料のことですね。世界的なスポーツ大会ですから、私たちには想像出来ないほど多くかかるのでしょう。もちろん、国だって借金はしたくありません。できることなら、お金をかけずに準備がしたいと考えています。そこで非正規雇用を雇うのです。

もし非正規雇用であれば、正社員と比べて少ない給料で働かせることができ、さらには雇用に制限をつけることもできます。つまり、社員が「やめたくない」と言った場合でも、会社は強制的にやめさせることができるのです。

安く雇えるうえに、用事が済めば簡単にやめさせることができる、となれば募集が増えないわけがありません。しかし、非正規雇用が増えれば増えるほど、仕事をなくす可能性がある人も増えるのです。

世界の注目を集めながら大会を成功させることや、オリンピックの感動を間近で味わえることは、確かに素晴らしいと思います。

しかし、未来のことを考えずにオリンピックを開催するのは、自分で自分の首を絞めているのと同じです。やがて、取り返しのつかない悪循環が日本を襲うことになるでしょう。

もしかすると、7年後のあなたはこの悪循環のなかにいるかもしれません。

今の瞬間まで、この話を他人ごとと思って読んできたかもしれないですが、ここからは他人ごとではないと考えてください。未来のあなたは、社会に活躍する場がなくて困っているかもしれません。その日の食べ物さえに困っている可能性も充分ありえます。あなたに意地悪がしたくて、不安をあおることを述べているのではありません。なにせ、この本を書いた人間さえ、どうなっているかは分からないのですから。

なぜあえてこんな話をしているかは、一度は華やかなオリンピックの舞台となったのに廃墟のようになってしまった施設のことを考えれば、もう分かりますね。たとえ、「今」のあなたが非常に良い成績を取って、一番良いと言われる大学に行ったとしても、社会は「未来」のあなたの保証はしてくれないからです。

未来が保証されていないということは、今のあなたが学校へ行っていることには、何の意味があるのでしょうか。また、社会で働くということは、こんなに厳しいことばかりなのでしょうか。

本書は、みなさんのような、これからを生きていく人たちの「今」と「未来」における社会の関わり方についての話をしていきます。「今」は『学校』に関すること、「未来」は『仕事』に関することだと考えて下さい。

必然的に悲しい話も多くなってしまうでしょう。しかし、未来を悲観する必要はありません。幸せになる保証がないということは、あなたが不幸になる確証だってどこにもないのです。今のうちから、社会に対する考え方を変えてください。

「未来」のことを知り、「今」をしっかりと見てください。本書が、みなさんが社会で生きていくうえでの手助けになれば良いと思っています。

まずは、先ほどお話した非正規雇用や正社員などが関わってくる、『仕事』について見ていきましょう。

第二章

「探そう！自分の働き方」

働くってどういうこと？

中学生や高校生になると「学校を卒業したら、特別な理由がない限り社会に出て仕事をしなければならない。」と気付き始めるでしょう。憲法にも「すべての国民には、勤労の権利を有し、義務を負う」とあります。しかし、働くことがどういうことかわからない人も多いと思います。

まずは「働くこと」とはどういうことかを考えていきましょう。

「働く」は「傍楽(はたらく)」と書かれることもあります。文字の通り「傍(周り)の人を楽(幸せ)にする」という意味だそうです。例えば、現在学校に通っているみなさんは家族が働いてくれることで、衣食住が満たされて、学校に行くことができて、遊べている。つまり、楽をしているということになります。さらに、家族の働きによって国や地方に税金を払ってもらいます。その税金が福祉事業に使われます。このお金は保育所を建てたり経営したりすること、障がいを持った人を助けること、理由があって働けない人を助けることにも使われます。

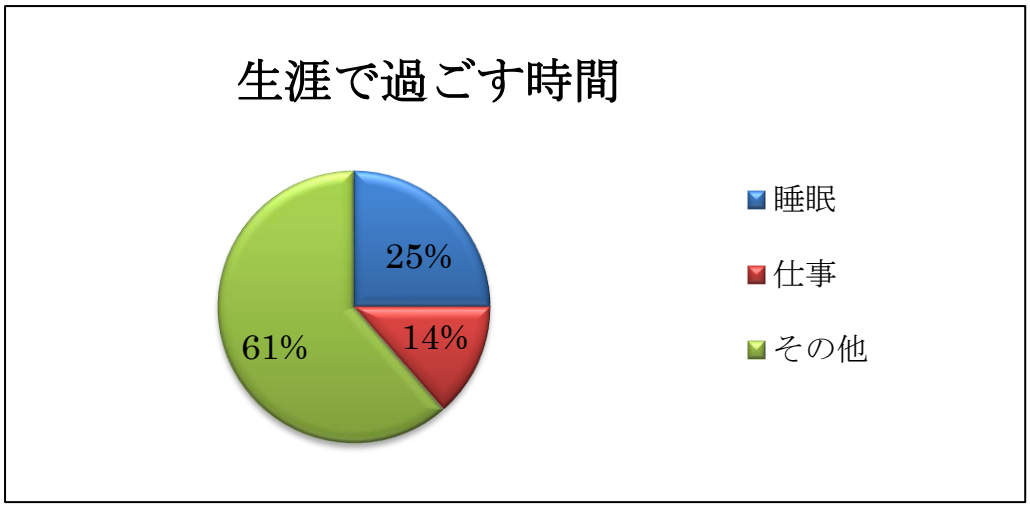
これによってみなさんの知らない誰かも楽になることができます。また、一つの会社の中で１人が働くことで、会社に利益をもたらすことができます。これによって会社は楽をすることができます。１人の働きによって、たくさんの人が幸せになれるということが「働く」ということなのです。

次に働く理由を考えていきましょう。

働く時間は人生の大部分だと言われています。具

体的な数字を挙げると、1日約10時間、1年間で休日を抜くと約250日、大学を卒業した22歳から60歳までの38年間働くと、約9万5000時間を仕事に費やすということになります。睡眠時間は1日の約6時間とし、80歳まで生きたとすると、約17万5200時間となります。

つまり、睡眠時間の半分以上を働くことに費やしていることになります。



「どうしてあなたは働いているの」と尋ねると、「お金のため」という回答が返ってくることが多いようです。しかし、お金のためだけに人間はそんなに長い時間を「働くこと」に費やすことができるのでしょうか。

大学生の私もアルバイトという形で働いています。おおよそ3年半家庭教師をしています。家庭教師の仕事は生徒に勉強を教え、成績を上げるよう努力し、進路の相談に乗ることです。生徒の成績が上がり、希望していた進路に進むことができると、生

徒や生徒の保護者に喜ばれ、感謝されます。私も一緒に喜び、やりがいを感じます。

もちろん、私もお金のために働いているという面もありますが、お金のためだけにここまで続けて働けません。やりがいがあったからこそ働き続けることができました。どんな仕事にもやりがいはあります。働く上でつらいこと、悲しいこともたくさんありますが、成功した時の喜びややりがいを糧に人は働いているのではないのでしょうか。

不景気と言われる今の社会では仕事を選ぶことは難しいです。しかし、みなさんの仕事への取り組み次第でやりがいを見いだせることができ、その取り組みはきっと評価されるでしょう。

仕事の正規雇用と非正規雇用って何？

前章の「キミが働く理由」では働くこととはどういうことか、働く理由といった仕事をする上でとても大切な核になっていく部分に触れましたが、「仕事の正規雇用と非正規雇用って何？」では、仕事の「雇用」について触れていきます。

まず仕事には、正規雇用と非正規雇用があります。

正規雇用というのは正社員のことで、非正規雇用というのは、正社員以外の全ての働き方のことをいいます。では、どのような種類があるのか見ていきましょう。

正規雇用

1、正社員

働く期間を決めずに、常に勤務するという約束で働く人のことをいいます。「正社員」とは、会社や企業が、非正規雇用の社員と区別するために用いるようになった言葉です。なので正社員には、法的な定義はありません。

けれども、一般的に正社員というのは、一度会社に入ると、その会社でずっと働き続けます。「8時から17時まで」など、会社が決めた時間で働き、年齢とともに給料が上がります。また役職に就くこともあり、会社の都合によって転勤をすることもあるというような特徴があります。

非正規雇用

2、パート、アルバイト

パート、アルバイトは、パートタイム労働法(「短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律」)で、「1週間の所定労働時間が同一の事業所に雇用される通常の労働者の1週間の所定労働時間に比べて短い労働者」とされています。分かりやすく言うと、正社員より短い時間働く人のことです。パートとアルバイトは、定義を見ると違いがありません。

しかし、会社や企業の求人広告の雇用形態の記載や、世間の意識の中では、パートとアルバイトは分けて考えられています。パートは、正社員よりも短い時間で働く約束をした人のことをいい、一定の時間以上を長期で継続的に働ける人を対象としている場合が多いです。アルバイトは、期間を決めて働くという約束で働く人のことをいい、その期間も短期間である場合が多いです。

パートは、短**時間**労働者。アルバイトは、短**期間**労働者と考えると分かりやすいです。

3、契約社員

働く期間が決められているという約束で働く人のことをいいます。

その期間は、改正労働基準法によって平成16年1月1日から、原則として上限は3年と決まりました。そして、専門的な知識などを持っている労働者、満60歳以上の労働者の働く期間については、上限が5年とされています。

原則としては、この通りなのですが、一生懸命働けば、約束の働く期間を長くしてもらえたりするこ

ともあります(契約更新)。さらに、改正労働契約法によって平成25年4月1日から、この契約更新をして働く期間が通算5年を超えた場合、労働者が申し込めば、正社員のように期限を決めずに働くこともできるようになりました。

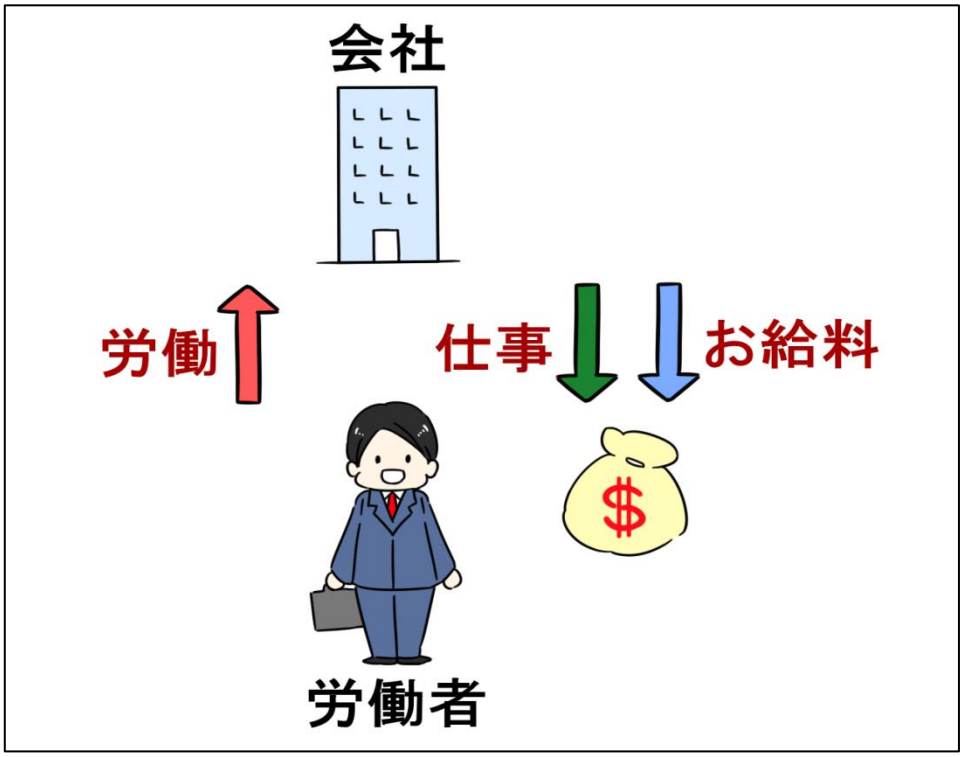
4、派遣社員

派遣会社という働く場所(会社)を紹介してもらえる会社に働く約束(登録)をし、条件に合った会社を紹介してもらって働く人のことをいいます。紹介してもらった会社で働く期間が終わると、また派遣会社に別の会社を紹介してもらいます。

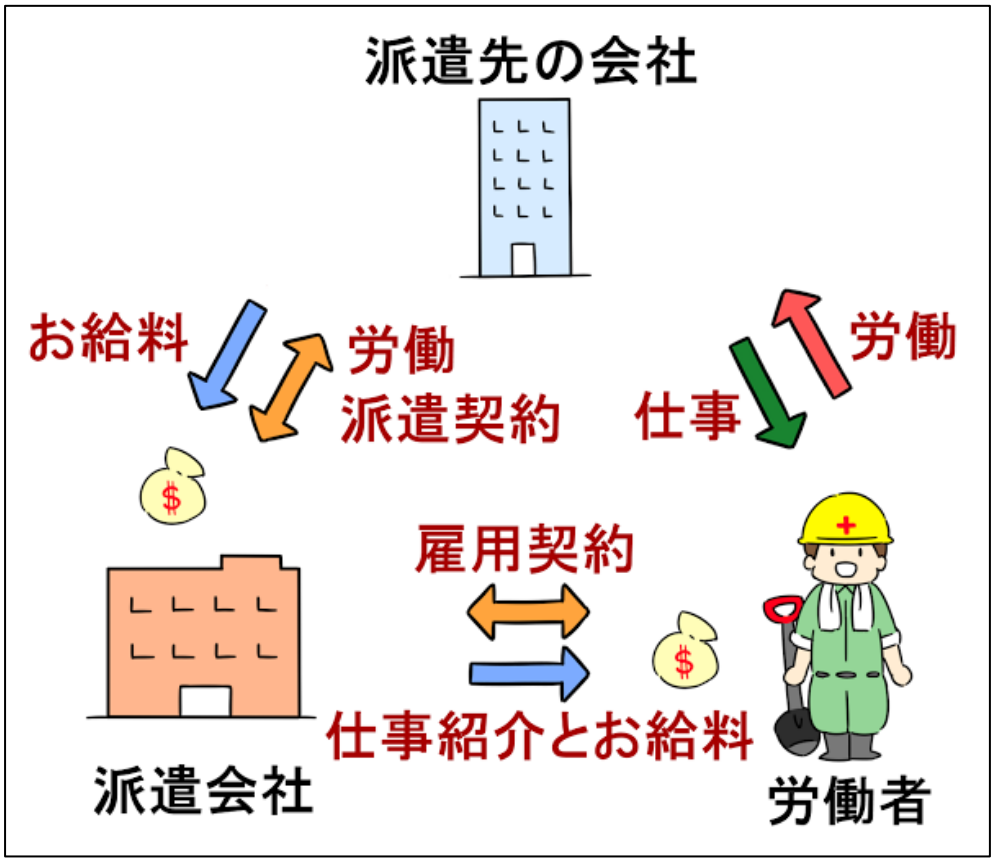
派遣社員は、1～3の人たちと違うところがあります。それは、働く場所(会社)と直接働く約束をしていないことです。別に問題はないのではないか、と思うかもしれません。

しかし、関わる会社が2つに増えたことで、働いてもらえる給料(お金)が、1～3の人が働いてもらえるはずの給料より少なくなっているのです。派遣会社に会社を紹介してもらったので、紹介してもらったことに対して、給料からその分のお金を引かれているのです。

派遣社員ではない場合



派遣社員の場合



また、お金の問題もそうなのですが、社会で問題となったのが、2008年の世界的不況が原因で行われた「派遣切り」です。

派遣切りとは、会社や企業が、経営状態の悪化や不況によって、派遣社員に対して、契約を解除したり、契約更新をさせないことをいいます。労働者の人数の調整をし、人件費を削減するのです。2008年以前から派遣切りは行われていたのですが、2008年に行われた派遣切りは、大手企業による大規模なもので、派遣期間が終わった後の、契約解除だけでなく、派遣期間が終わる前の契約の打ち切りまでも実施しました。世界的不況が理由だとしても、切り捨てられた派遣労働者のその後の生活も考えない横暴な手段は、人権を無視しているといえ、企業の常識が問われ、派遣社員に対する非常識な扱いが、世間に明らかになりました。

翌年の2009年の厚生労働省の調べでは、派遣切りだけが原因ではありませんが、派遣社員の人数が97万人も減っていて、いかに大規模なものであったかが分かります。

5、嘱託（しょくたく）社員

長い期間働いた人が、定年(ある一定の年齢になったら仕事を辞めるその年齢)などを理由に一度退職(仕事を辞める)したのですが、その後また働く約束をして働く人のことをいいます。

嘱託社員は、今までの正社員とは違うので、働く時間、働く日数や給料も変わってきます。また、契約社員の説明にも出てきましたが、満60歳以上の労働者となるので、働く期間については、上限が5

年とされています。

6、その他の働き方

たくさんあるので、ここでは日雇労働者を例に挙げますね。

日雇労働者というのは、1日限りの約束で、臨時に日々雇われて働く人のことをいいます。働く期間が1日と短いため、契約社員よりも景気の動向による労働者の人数調整の影響を受けやすいです。気軽に数日だけ働きたい人には、都合がいいかもしれませんが、この仕事だけで生活していく場合には、非常に不安定な働き方といえます。

仕事には大きく分けて、これだけの種類があります。

ここまで説明ばかりで、例えばどんな職業に正規雇用と非正規雇用があるのか、とか非正規雇用は自分には関係ないんじゃないか、など思った人もいるかもしれません。

けれども、決して関係のないことではありません。みなさんが普段関わっている人の中にも非正規雇用の人がいるかもしれませんし、もしかしたらみなさんが非正規雇用として企業に雇われることになるかもしれません。

次に少しだけ、非正規雇用の例を載せておきます。

●私が思ったアルバイトと正社員の違い

私は、今コンビニでアルバイトをしています。非正規雇用ですね。働く時間帯は、夜間や休日など正社員が働きたくないときに働くことを望まれる場

合が多いです。給料もそんなに高くはないです。けれど、働く時間が長い日もあれば短い日もあり、たくさん働く月もあれば、ほとんど働かない月もあって、正社員の人と違って、自由に働くことができるのであまり不満はないです。

また私は、今のアルバイトは、大学を卒業して、就職先が決まれば、すぐに辞めようと思っています。その意思を事前に伝えておけば、企業にもよりますが、すぐに辞めることができるのです。この働く時間の自由さと、働く期間の短さは、この仕事だけで生活をしていない大学生の私にとっては非常に都合がいいです。私は、この 2 点が正社員とは違うところだと思いました。

● 非正規雇用の教員

みなさんが通っている「学校」も実は非正規雇用と関係があるのです。近頃問題になっているのですが、それは、非正規教員が増え続けているということです。

そもそも教員には 3 つの雇用形態があります。正規採用(正規雇用)、臨時採用と非常勤講師(非正規雇用)です。臨時採用は、出産や病気でお休みをとる教員に代わって働く人です。学校経験のある退職者などを、即戦力として雇用することを想定していて、正規採用と同じように担任も受け持ちます。非常勤講師は、短時間勤務で音楽など一部の教科だけを教えます。

全国の公立の小中学校の臨時採用の人数は、今年 5 月 1 日時点で 6 万 3695 人と 8 年前の 1.3 倍に増えていました。定員に占める割合が全国で 1 番多い

沖縄県では、16％と6人に1人が非正規職員という現状で、次に埼玉県、奈良県、福岡県では12％を占めています。

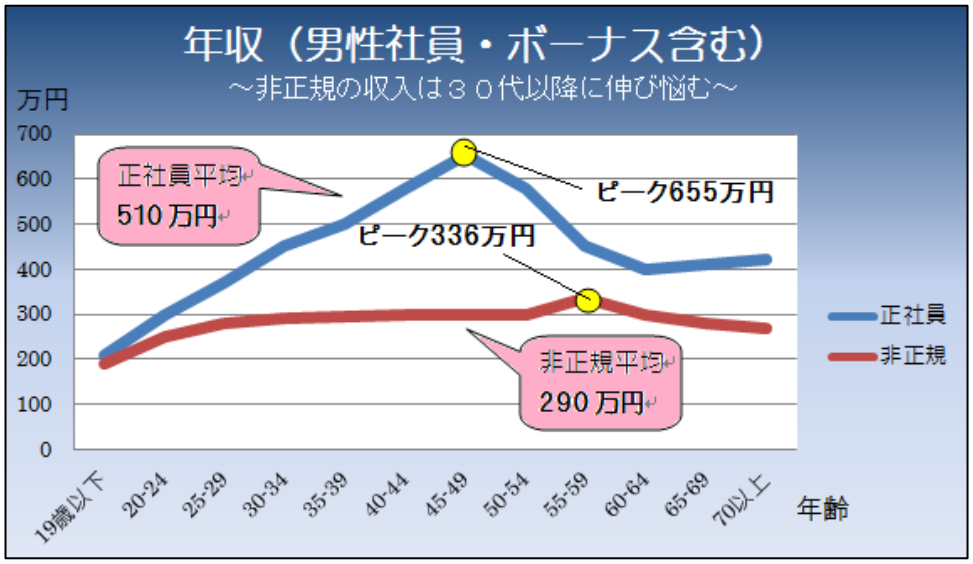
なぜこんなことになるかというと、正規採用教員の不足を臨時採用で補うケースが増えているとみられているからです。定員に占める割合が全国で2番目に多い埼玉県を例にして見ると、公立の小中学校の1割のクラスを臨時採用の教員が担任をしています。

埼玉県では、子どもの数が90万人余りとピークだった昭和50年代に採用された教員が、今、一斉に定年退職の時期を迎えています。教員がいなくなった分、新しい教員を採用したいところなのですが、ここ30年の間で公立の小中学校に通う子どもの数は38万人となっていて、40％も減少してしまいました。社会で問題になっている少子化です。これから先も、少子化は進む見込みで、今の子どもの数に合わせて正規採用の教員を増やすと、将来、子どもの数に比べて教員が多くなりすぎてしまうのです。だからといって、すでに働いている正規採用の教員を解雇することは簡単ではありません。そうすると、新しく若い教員を正規採用することもできず、学校の教員の年齢層が中高年に偏ってしまいます。こうした理由から、今の教員不足を臨時採用の教員で調整しているのです。

仕事の正規雇用と非正規雇用について書いてきましたが、今度は正規雇用と非正規雇用の「違い」について詳しく見ていきましょう。

○賃金の違い

ここまで非正規労働者の種類についてお話してきました。今度は正社員と非正規労働者の、お金の部分に注目していきましょう。まずはこちらを見て下さい。これは男性の正社員と非正規労働者の年収をグラフにしたものです。女性は専業主婦やパートタイム労働者などが多いため、比べやすい男性社員の方を載せています。グラフを見てみると、両方とも10代後半から20代前半まではあまり違いはありません。しかし、40代後半から50代前半にかけては300万円近くの差ができているのが分かります。300万円というと、新車が2、3台買えてしまうほどの大きな額です。また、非正規労働者のほうでは、働き盛りである30代での収入が増えていません。



（参照：2013/09/23『産経ビジネス』より http://www.sankeibiz.jp/econome/news/130923/ecd1309231801005-n1.htm）

○労働条件の違い

給料のことが分かったところで、次にそれぞれの労働条件について詳しく見て行きましょう。実は、正規雇用と非正規雇用の違いは、働く時間や給料だけではありません。下の表に載っているだけでも、働くときの条件がこんなにたくさんあることが分かります。

雇用形態 ＼ 労働条件	正規雇用	非正規雇用				
	正社員	パート	アルバイト	派遣社員	契約社員	嘱託社員
①雇用期間の定め	×	△	○	○	○	○
②雇用保険	○	△	△	△	△	△
③健康保険	○	△	△	△	△	△
④ボーナス	○	△	△	×	△	△
⑤昇給	○	△	△	×	△	△
⑥退職金	○	△	△	×	△	△
⑦教育訓練	○	△	△	△	△	△

（参照：『“子育て中も働きたい”を応援する！マザーズジョブカフェ』より http://www.pref.kyoto.jp/mothersjobcafe/knowledge/knowledge10.html）

まず、①の『雇用期間の定め』を見てみると、正社員（正規雇用労働者）だけが×になっています。これはどういうことかというと、入社したその日から退職するまでの間ずっと働けますよという意味になります。逆に△や○のパート、アルバイトの人は働ける日数の期限が決まっていて、いつクビになってしまってもおかしくないという事になります。こ

れは、仕事をする上でとても重要な問題となってきます。

次に、②③の『雇用保険』と『健康保険』を見てください。正社員以外は△がずらりと並んでいます。雇用保険とは、失業したときに手当を受けられる保険制度のことで、もしクビになってしまった場合でも次の仕事を見つけるまでの間お金をもらうことができます。

健康保険とは、生活を守るための保険制度の1つで、病気やケガでの出費に対しての負担が軽くなる制度のことをいいます。健康保険に入るには、まず自分の住んでいる地域に保険料というものを納めます。健康保険に加入していると、病院にいった時の医療費負担が3割になります。残りの7割は国が支払ってくれます。年齢的に働けない子どもや専業主婦などの場合は、夫や親が健康保険に入っていると、保険料を納めることなく、3割負担で治療を受けることができます。しかし、年収が130万円を超えれば正社員と同じように健康保険や雇用保険に入って保険料を支払う必要が出てきます。これは『130万円の壁』とも呼ばれていて、このボーダーラインを越えないように働いているパートタイム労働者やアルバイトの人たちが多くいます。そのため、表では△で示しています。また、『103万円の壁』というものもあり、この場合は所得税や住民税などの税に関するボーダーラインとして知られています。

また、ボーナスや昇給、退職金に関しては、会社によっては出るところもありますが、やはり正社員

に比べると少ないのが現状です。最後の教育訓練に関しては、パートやアルバイトは仕事の内容や成果に応じて教育訓練を受けられると法律で定められています。しかし、必ずしもそれが十分に実施されているとは限らないようです。

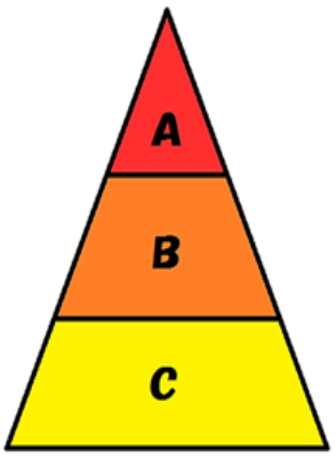
ではなぜ、こんなにも働いている人の間に格差が生まれてしまったのでしょうか。1995 年までの日本は、だんだん賃金を上げて行き、定年まで働かせるという制度が特徴でした。しかし、高度経済成長の終わりやバブル崩壊の影響もあって、それまでの制度では上手く社会が回らなくなっていきました。

そこで、1995 年に日本の経済団体が「新時代の『日本的経営』」というものを発表し、労働者を 3 つの層に分けようという方針を打ち出したのです。

A …長期蓄積能力活用グループ
(正社員、会社の幹部など)

B …高度専門能力活用型グループ
(契約社員や派遣など。
給料は成果・実績主義)

C …雇用柔軟型グループ
(パートや派遣など。
給料は時給制が中心)



(参照 :『動労千葉』より
http://www.doro-chiba.org/news/2003_news_02/news03_17_3.htm)

上の表を見ても分かるように、正社員は上層部のAだけで、それ以外のB、Cは非正規労働者で、働く期限が決められています。つまり、定年まで働くことができる人をごく一部にして、他の大部分の労働者をいつでも切り捨てられるようにするという事です。必要がなくなればいつでもクビにでき、必要になれば働いてもらう。「使い捨てにできる駒がたくさんあれば、景気の動きにも柔軟に対応できる」という考えなのです。

賃金が安くてボーナスも退職金もいらない、そしていつでもクビにできる。経営者にとって「とても便利」な非正規労働者は、1995年から急増していきました。このことが、労働者の格差を広げる大きな原因となったのです。

いつクビになるか分からない上に、クビになった時にはいきなりお金がもらえなくなる。この状況は、とても大変なものです。また、非正規労働者は正社員と違って、働いている間の教育や訓練の時間があまり設けられていません。そのため、社会的なスキルが身に付きづらくなっているので、新しく次の仕事に就こうと思っても、なかなか上手くいかない場合が多くあります。

つまり、非正規労働の人たちは、仕事をする上で自分を守ってくれる助けが少ないのです。一度失敗してしまうと、元の立場に戻りづらくなってしまいます。不安定な労働条件のもとで働いている非正規労働者は、それ相応のお金をもらっても良いはずです。しかし、実際の給料は正社員より低く、会社に使い捨てにされてしまうというのが今の現実です。

ここまで非正規雇用と正規雇用について説明してきましたが、みなさんにはまだ“働く”という実感が湧きにくいかもしれません。そこで、実際に高校を卒業してから、非正規社員を経て現在正社員として働いている Y さん(21 歳　女性)にご自身のお仕事についてお伺いしました。

―働く、ということについて聞いていきたいと思っています。まず、どんな仕事をしているのか教えてもらってもいいですか？

はい。私は、大阪のカフェ＆バーで働いていて、ホールとキッチンを任されています。ホールは接客のほかに、ドリンクを入れたり、正社員になってからは、ドリンクのレシピを作るのを任されたこともありますね。キッチンだと、お客様にお出しする料理の仕込みをしたり、調理して出したりもしています。まだ、料理のメニューを考えたりはしていないです。

―なるほど、ドリンクのレシピを考えるのはすごく楽しそうですね。次に Y さん自身のことについてお聞きします。最終学歴を教えてください。持っている資格などもあれば、お願いします。

高卒です。英検 2 級なら持っています。でも、あんまり資格とかは関係なかったですね。

―では、どんどん聞いていきます。アルバイトも含めて、何歳から働き始めましたか？

15 歳、コンビニが初バイトです。懐かしい！！

あの頃は若かったなあ。今はおばさんですね(笑)

―私と同い年じゃないですか。(笑)　このインタビ

ューは、中高生を中心に読んでもらいたいので、15歳って年齢は親近感が湧くかもしれないですね。その後、高校生を経て、アルバイトも転々とされてきたわけですが、いつごろ正社員になったのですか？

2012年の12月までは、今の所でアルバイトしていました。2013年の6月に正社員になったんです。私の店の場合、正社員になるには、当たり前ですが本人の意思、オーナーからの依頼、店長の推薦という三つが揃うことが必要なんです。初めはアルバイトとしての年収が 103 万を越えたらいろいろややこしいっていう決まりがあって、越えそうだったので店長に相談したら、後日、『正社員になる気ない？』って。

正直、(こんなに早く正社員になれるのか！)ってびっくりしました。

―おめでとうございます。ですが、正社員になれるまでと、正社員になってからは何か不安を感じることはなかったですか？

意外かもしれないけど、正社員になれるのかな、っていう不安はそんなにありませんでした。正社員になってからの方が不安や苦労は多かったです。正社員を希望する人でも、正社員になれない人もいて、その中で自分はなれたっていう嬉しさや優越感はあったけど、正社員になると、労働時間も変わって体力的、精神的にも辛い時期があったし、あとは他のアルバイトのフォローも大変でした。教育の仕方などですね。

あとやっぱり、知識も技術もまだまだなので、身につけたいです。でもそんな余裕なくて、そこで悩みまくりですね‥‥‥。

―飲食業で、カフェ＆バーという、昼も夜も経営している店だから、時間的に辛い部分はあると思います。では、なぜ、今の仕事を選んだのですか？

新しい、安定したバイトを探そうと思っていて、インターネットを見ていたら、そういえば飲食ってやったことないなって思ったんです。居酒屋とか、ファミレスとか、騒がしい場所より、落ち着いたカフェっていいなって。そうしたら今の仕事の求人が偶然出ていて、お店のホームページを見たりして、お店に興味を持ったのがきっかけでした。

ちょうど、(フリーターのままではあかんな)とも思っていて、『正社員登用あり』の文字に惹かれたのもありますね。今思えば、縁があったのかも。ピンと来た、みたいな感じです。

―それは、縁があったのかもしれませんね。職場の人間関係はどうですか？

めっちゃ良いです！！　店長、正社員の人達の人柄が良くて、上に立っている者として、理不尽じゃなく、怒る時は怒る、教えるってことがきちんとできています。お店の雰囲気もそのおかげか、良いものになっている気がしますね。アルバイトの人もちゃんとした態度です。少人数なのもいいのかもしれません。

―羨ましいです・・・・・・。仕事で、やりがいを感じる瞬間ってありますか？

ありがちだけど、ホールでお客様の笑顔を見られる時、『おいしかったです』と言われる時ですね。逆に、キッチンやとまだ正直やりがいを感じるとこまでいけてないです(笑)

ホールは直接反応が返ってくるけど、キッチンは

中にこもっているし、やらされている感が強いから、そこも徐々に変わっていけたら、やりがいも出てくるのかな、と思います。

―仕事の初任給って、何に使いましたか？

初任給は、お母さんにプレゼント買いましたね。給料は、実家に入れたり、貯金したり、趣味に回したり。

―素敵ですね。では、アルバイトから正社員になって、何が変わりましたか？

さっきも言ったけど、収入が増えたことです。あと、福利厚生。産休も取れたり、保険もおりたり。安定感を持つことができるかな。生活習慣も変わりましたね。

それから、アルバイトをしていた上で、正社員になれたのが良かったです。ゼロからのスタートじゃなくて、アルバイトの人に、以前の経験を活かして教えることが出来るし、正社員としての立場だと、ある程度の権限は持てるから、そこも大きな違いでした。自分で判断して動けるようになるので。

今の時代だし、正社員になったからって安泰ってわけじゃないけれど、社会で生きていく上での立場、居場所、必要とされている感覚は、アルバイトでは無かったものです。アルバイトはいつ辞めるか分からないし、仕事のミーティングに参加したりもできないし、ずっとアルバイトのままだと、これからどうなるのかという不安もあるし、親に迷惑を掛けているっていう気持ちもあったんですけど、そういった「その場しのぎ」の生き方、ごまかしてやってきたことから解放されました。

責任も重くなるけど、その分、自分の存在がはっ

きりしたと私は感じたし、今までのことを無駄にしないという意味でも、正社員になれて良かったです。

―真剣にお答え頂き、ありがとうございます。では、何の為に働いていますか？

安定的な収入を得る為と、親を安心させる為です。あとは、自分の楽しみの為。これからは、他人に尊敬されるような、経験を活かせる、もっとしっかりした人になる為にも、働き続けていきたいと思っています。

―しっかりした考えをお持ちですね。見習いたいです。最後になりましたが、大学へ進学したいと思ったことはありますか？

高校時代は、大学に行くのが当たり前だと思っていたし、学びたいこともありました。今も、多少惜しいことをしたかとは思っています。でも、大学に行くってことが、私の中で選択されなかったってことは、それでいいんだ、っていう考えだから、今は行きたいとは思ってないです。ただ、知識をつけることは大事だし、考える頭を持つっていうのはいいことだと漠然と思っています。大学生は、遊んでいる人もいれば勉強している人もいると思うけれど、社会人や、小中高校生と違うのは、『圧倒的な自由さ』だと思います。

決まった年数の中で自分が自由に選択していって、そこでその人次第の生き方が決まるわけですよね。大学でしか学べない、その教授にしか聞けないこともあれば、大学でしか生まれない出会いもあるわけで。もし私が大学に行っていたら、って、今でも時々考えることはあります。

―最後まで丁寧にお答え頂き、ありがとうございま

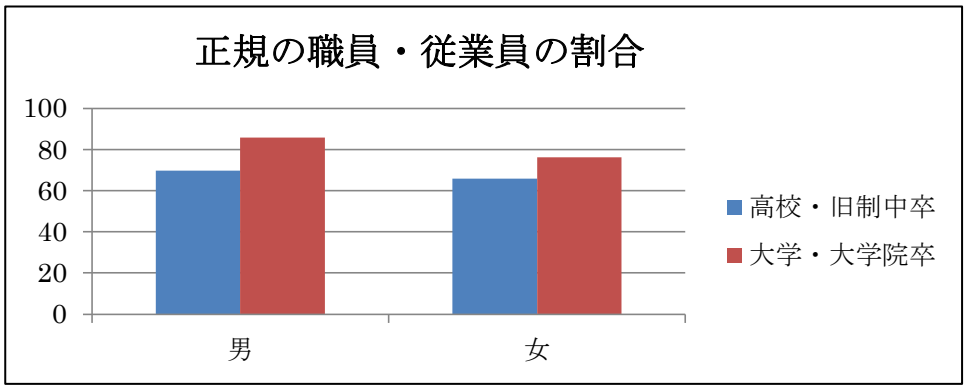
した。Yさんに、いろいろと聞けて、すごく勉強になりました。

正規雇用とキャリア教育

さてみなさん、正規雇用と非正規雇用の違いについては理解していただけたでしょうか？　働くということは同じでも、正規雇用であるか非正規雇用であるかによって、受けられる待遇や生活も変わってきます。

では、みなさんはどうすれば正規の社員として雇ってもらえると思いますか？　早く就職活動をすれば正規の社員になれるのでしょうか、それとも、賢い大学へ行くことが出来れば正規の社員になれるのでしょうか。それを今からみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

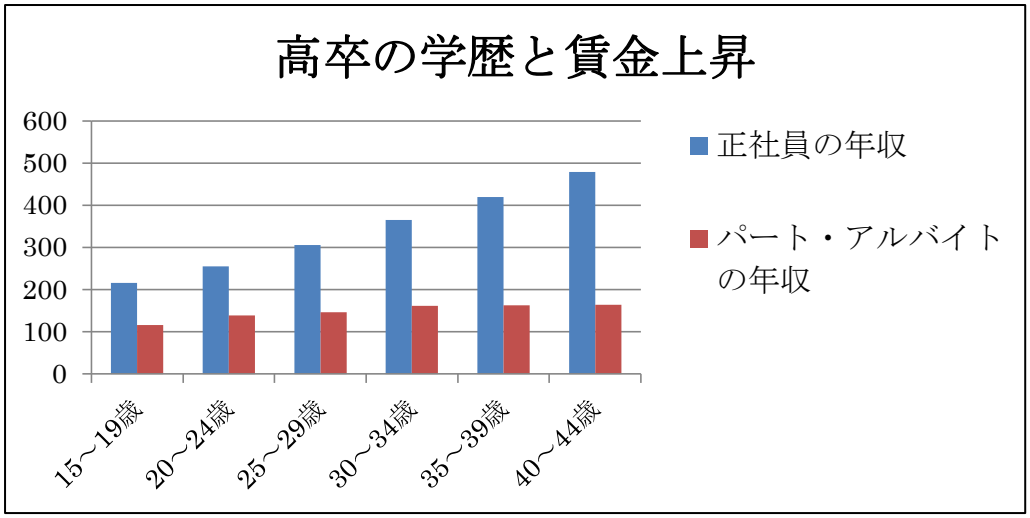
ではまず、下のグラフを見てください。

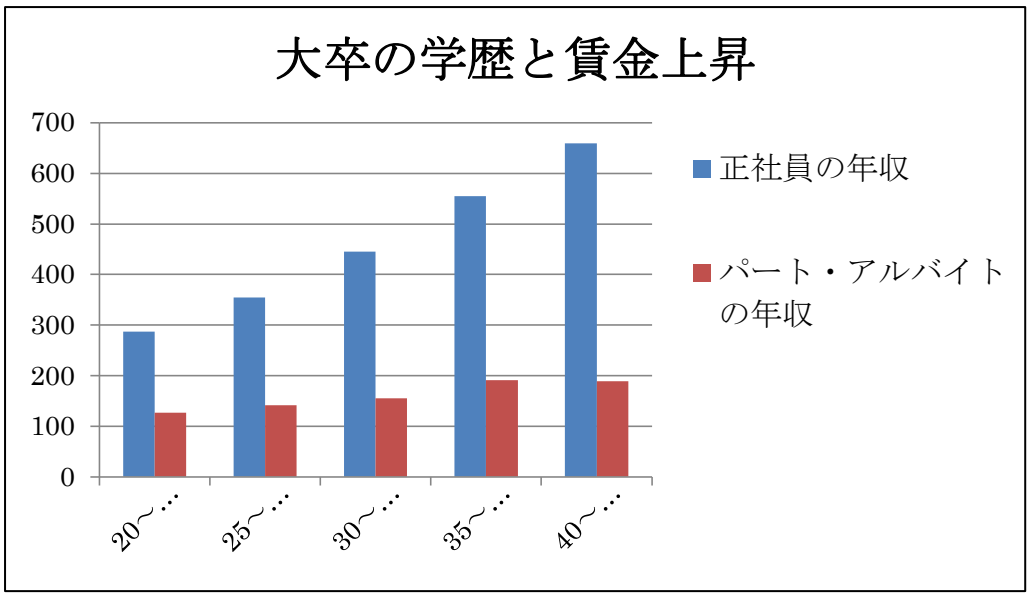


（参照：『厚生労働省
平成24年　国民生活基礎調査』より）

これは、高卒の人と大卒の人の卒業後の正規雇用率を表したグラフです。大差があるわけではありませんが、大卒の人の方が確率は高いことがわかります。

次にこちらグラフを見てください。





（参照：独立行政法人
労働政策研究・研修機構　『若年者の就業状況・キャリア・職業能力開発の現状』―平成19年版「就業構造基本調査」特別集計―より）

これは、高卒と大卒の賃金の変化について表したグラフです。この数値は男性を対象としたグラフですが、女性にも同じような傾向がみられています。どちらのグラフもパート・アルバイトは変化があま

り無いように思えますが、大卒の人の方が正社員であってもパート・アルバイトであっても、グラフの伸びが良い、つまりお給料の上がり方が良いことがわかります。

この二つのグラフを見ると、学歴が重視されているように思い、やはり大学の偏差値を気にしてしまうかもしれません。確かに、今でも学歴を重視している企業はあります。しかし、ここではみなさんに、大学に行く意味を考えていただきたいのです。大学に行くという事は学歴を得るためのただの過程なのでしょうか？　正規の社員になるためには、学歴だけがすべてだと思い始めてはいませんか？　そこでみなさんにお伝えしたい情報があります。

実は現在、雇用形態に影響を与えている可能性があるものとして注目されているのが、高校や大学時に受けたキャリア教育なのです。

内閣府の調査によると、高校を卒業して就職した人の場合、高校在学時に「企業から派遣された講師の方や職業人による実践的な授業・ワークショップ」や「コミュニケーションやマナーを学ぶ授業」に参加していた人の多くは、後に正規雇用者となっています。また、大学を卒業して就職した人にとっては「労働法(働くことに関する法律)や就労支援の仕組みに関する授業」や「ボランティア活動」へ参加したかどうかが、正規雇用者と望まずに非正規になってしまった雇用者の間で大きな違いとなっているようです。

キャリア教育とは、ただ働くために必要な知識や考えを学ぶだけではなく、一人の社会人としてこれ

からを生きていくために自分を磨くことのできる、とても重要な教育であると言えるでしょう。

大学に行くことは学歴を得るための過程であるというよりは、大学卒業という資格を得る場所であると考えてみるといいかもしれません。大卒という資格があると、就職先の幅も広がります。そうなれば、必然的に正規で雇ってもらえる可能性も上がることがわかります。さらに、自分という人間を豊かにしてくれる仲間に出会え、興味のあることが学べて、そして新しい自分に出会えます。そんな素敵な時間が作れることが大学の最大の魅力であると言ってもいいかもしれません。

ではここで、現在大学を卒業して会社で働いているCさん(24歳　女性)に話を聞いてみました。

―今、何の仕事をしていますか？

コンピューターグラフィックの制作会社で働いています。広告を作っていて、私はそこで営業職をしています。その中で不動産や建築を担当しています。

―何歳から働き始めましたか？

22歳です。大学に在学中に就職活動をして、卒業後に就職しました。

―大学を卒業してから、ということですが、就職活動で大変だったことや苦労したことはありますか？

そうですね、特に何がしたいという意思や希望がなかったので、どの業界で仕事を探すかということを決めるのが難しかったです。

－大学在学中に得た資格はありますか？

マルチメディア検定と、秘書検定です。

―では、色々な仕事がある中でこの業界を選んだ理由を教えてください。

営業という仕事なら、色々なことを経験出来ると思ったからです。それと、毎日同じ仕事をするというのは自分に合っていないと思っていたから、変化のある営業を選びました。

―色々なことが経験出来る、という色々とは、具体的にどのようなことでしょうか？

お客様とのやり取りや、新しいお客様を増やしていくといったことは、営業でしか経験出来ないことなのかなと思ったので…。それに営業で経験したことは、どこにいっても生かせると思ったからです。

―今働き始めて二年が経とうとしていますが、仕事をしていて苦労したことを教えてください。

会社で働く上で、社会に対する知識というものが全くと言っていいほどなかったので、上司や先輩、お客様との会話のやり取りについていけないことがよくありました。

―確かに、学生時代の先輩や先生と会話をするのとは全く違いますよね。会社内において上司や先輩との関係性も仕事を続けていくにあたって大切だと思うのですが、今の職場の人間関係はどのような感じですか？

割といいと思っています。私が所属する営業チームもいくつか班に分かれているのですが、その営業チームの中でも特に会話の多い班にいるので、何か困ったことがあった時に相談できるような先輩や仲間がいます。

―働きやすい環境というのは大切ですよね。では、印象に残っている仕事はどのようなものでしたか？

やはり、初めて一人で任された案件ですね。上司に相談するということはあっても、基本的には自分で判断して進めていたので、お客様との打ち合わせも一人で行っていました。全てを自分一人ですることは不安だし、とても大変でしたが、商品をお客様に渡して、しばらくした頃に広告として町に貼られている実物を見て、嬉しさのあまり写真を撮ったのを覚えています。

―やはり仕事をしていると嬉しいこともあれば苦しいこともあるものなのですね。私は何か目的がないと苦しい思いをしてまで仕事を続けられないと思うのですが、このために働いているというものはありますか？

まあ、働かないとお金はもらえないし、生活が出来ないですからね。社会人としても大人としても、働くのは当たり前かなと思っています。あと家族にもし何かあったときに、仕事をしていたら家族を支えることも出来るじゃないですか。

―では最後に、働く前と今とでは仕事や働くということに対するイメージの変化はありましたか？

働き始めるまでは、自分の選んだ営業という仕事は『ただ大変』というイメージでした。今でも覚えることは多いし、努力したことがすべて報われるという訳ではないけれども、頑張っていればそれを見てくれている人は必ずいるのだということがわかりました。それは、会社の中でも外でも、どこにいてもです。

ーありがとうございました。

大学の良いところ、利点、と言われても、みなさんがピンと来ないのは当然だと言えます。『大学なんて、行っても意味あるの』『勉強嫌いだし』『どんな所かよく知らない』と思っている人もいるでしょう。

では、ここから、大学に行っていて良かったことを挙げていこうと思います。

まず、なんといっても『時間』です。大学に行くと、自由に使える時間が多く、そこで何をするかもみなさんの自由です。資格を取りたい、勉強したい、遊びたい、海外に留学したい、アルバイトをしたいなどの、『～したい』という夢を叶えることができるのが大学です。中学校、高校とは比べ物にならないほどたくさんの時間があります。制限がなく、縛りもありません。その分、中学生や高校生のみなさんは、最初はどうしたらいいか分からないかもしれません。分からなくても大丈夫です。考える時間もたっぷりあります。

次に、『出会い』があります。大学に入る前に、みなさんは、どこの大学の、どの学部に入るか悩むはずです。そして、自分で選んだ大学に入学します。第一志望に受かった人もいます。推薦で入った人もいます。帰国子女、留学してきた人もいます。逆に、海外の大学に入る人もいます。落ちたので仕方なくこの大学にした、という人だっています。大学の教授、先輩や、後輩もいます。いろいろな人が大学に

集まってきます。その中で、みなさんには、たくさんの人と話すことをおすすめします。共通点を見つけたり、友達が増えたり、人との出会いを通して、みなさんは成長できます。

ここまで読んでも、大学に行く意味が分からない人はいると思います。では、大学に行く本当の意味とはなんでしょう。もちろん、『学問を学ぶため』です。大学では、中学校や高校と違い、一つの分野をじっくり勉強します。図書館も大きく、様々な分野のことでも、専門家である教授がいます。多くの情報が提供されます。大学に行く意味はここにあるのではないでしょうか。

みなさんはこれから、『自分が大学に行く理由』を探していってほしいと思います。例えば、一流シェフのいるレストランで、おいしい料理が食べられるとします。その料理を食べたいと思う人は大勢います。なぜなら、その料理はみなさんが作ることのできないものだからです。同じように、大学でしか得られないものは、たくさんあります。

最後に、大学に行くと、みなさんの将来に繋がるよ、という話をします。みなさんは夢や、やりたいことがありますか？　大学を出ると、どんな仕事に就けるのでしょう。

全国で、大学に行く人はどれくらいいるのでしょう。下の表を見てください。

全国の大学進学率(%)

男	54
女	45.6
全国平均	49.9

(参照:『文部科学省』より
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm)

この表は、2013年の文部科学省の調査データを元に作ったものです。全国平均で、どれくらいの人が大学に行っているのかというものを表しています。このデータによると、男女含め、49.9%の人が大学に行っています。ほぼ半分と考えると、分かりやすいかもしれません。ですが、同じ調査によって判明したことは、都道府県によって大学に行く人と行っていない人の割合は大きな差がある、ということでした。東京では10人のうち7人という割合です。

先ほど、大学に行くことで、みなさんの将来に繋がると言いましたが、東京にはたくさんの仕事があります。この数字も、そう考えると納得できるものですね。

大学に行くことで就ける職業は、多くありますが、代表的なものでいうと、医師、弁護士、大学教授など専門的なものが多いです。また、同じ職種でも、高卒と大卒とでは給料も違ってくるのが現実です。大学に行くと、必ずやりたい仕事ができる、というわけではありません。ですが、大学を出ることで、

みなさんが何かしら専門的なことを学び、その学問と仕事が結びつくことはあります。どんなにやりたい仕事でも、『大卒程度』と書かれていれば、大学を出ていなければその仕事をすることもできません。

大学は、みなさんの可能性を広げてくれる場所です。大学という場所をうまく使って、充実した時間を過ごしていきましょう。

第三章

「学ぼう！学校とネット社会」

学校はなぜ行くの？教育問題って？

みなさんに問いかけます。なぜ進学をすればするほど良いという、学歴社会が日本に存在するのでしょう？　また、なぜ学校に行かなければならないのでしょうか？　その疑問をここの章「学ぼう！学校とネット社会」で答えていければと思います。

前章の「探そう！自分の働き方」では、仕事や雇用についての内容が詳しく書かれていましたね。小・中学校における義務教育を終えて高等学校へ進学するのかそれとも社会に出て働くのか、あるいは高等学校を卒業して大学へ進学するのか専門学校を希望するのか就職をするのか、人それぞれ自由な選択肢があることがわかります。ですが、具体的なイメージは持てましたか？　まだ難しいと感じる人もいるかもしれませんね。それらを明確にするため、次の文章を少し見てみましょう。自分へのイメージを三つ考えてみて下さい。

1.高卒正規就職

第一のあなたは、高校3年生のとき進路を就職と決め、卒業するとすぐに働き始めます。しかし、それはアルバイトではなく正社員と呼ばれる、れっきとしたお仕事(正規職)です。会社全体で成功した時には給料が増えたり、ボーナスがたくさん出たりすることもありますよ。仕事に慣れて会社にとって役立つ人材になるにつれ、あなたは評価されるようになります。また、会社の業績があまり良くない時にも、それを理由にクビにされることは認められませんし、ケガや病気についても会

社はサポートしてくれます。なんだかシンプルのような気がしますが、裏を返せば安定して生活ができるということです。安定した生活を送ることができれば、安心して働くことができますね。

中学生・高校生にとって、この進路は魅力をもっています。まず、 高校卒業後に社会に出れば早い時期から努力した分だけ給料をもらうことができ、好きな人と結婚し家庭を築くという人生も、若いうちから叶えることができます。さらに、これから示していく②のような大学などに進学する場合と違って、受験のプレッシャーがない高校生活を送ることができ、高校を卒業した後はテストやレポートなどの勉強に悩むことがなくなります。「勉強が嫌いだ！」という人にとっては魅力的な進路に見えてきます。

しかし、就職先がなかなか決まらないことで焦りや不安が出てきてしまうこともあるかもしれません。また、高校や専門学校を卒業してすぐに安定した職に就き、それを長く続けるのは簡単なことではありません。実際に、せっかく入社した会社や職場との相性が悪く、仕事を転々とする人たちも多いようです。つまり、学生時代に知らなかった実際の会社の仕組みや規則、具体的な仕事、そして職場での人間関係を学ぶといった社会人経験が早い分、継続させることは難しいみたいですね。

2.大学進学

第二のあなたは、高校卒業後に進学します。ここでは代表的な進路のひとつである 4 年制大学

への入学を考えていきましょう。国公立か私立かという大学種別、文科系か理科系かという学部の選択などさまざまにありますが、あなたは4年間、大学に通います。大学生や受験生の中には、昔から大学進学を当たり前の進路だとみている人が多くいます。今、私たちが生きている日本の社会では特に多いですね。「大学に進学するのはあくまで大学卒業という学歴を手にするためだ」という人や「大学生活は苦しい受験勉強の先にある自由な時間」という人もいるでしょう。ですが、大学進学の本当の目的は、高校を卒業してから社会に出るまでに、お金と年数を自分にかけて、社会に出て働く人としての質を高めるということにあります。大学生は授業を受けて、自分を磨くことが大切なのです。

しかし、あなたは大学を卒業するまでに入学金や授業料など、たくさんのお金を払わなければなりません。つまり、あなたはあなたなりの大学へ通う意味をもっていなければ、そのお金は無駄になってしまうのです。ですが、意味をもっていれば①と③の人に比べ選択肢が広がるので、大学は自分への可能性を与えてくれます。

3.フリーター

そして、第三のあなたとはどういう人なのでしょう。それは20歳前後の時期に大学や短大に通わず、しかし正社員としては働いていない人です。あなたがフリーターになるまでの四つの経路を見ていきましょう。

一つ目は高校卒業後にすぐアルバイトを始め

るというパターン。二つ目は就職先を決めず、進学もせず、アルバイトもしないというパターンです。三つ目は高校卒業後に正社員となったけれども、20 歳ごろまでに辞めてしまい転職が続くというパターン。最後に、短期大学や大学、専門学校を中退して、アルバイトを始めるというパターンがあります。どういった過程でフリーターになるのか、それは人それぞれです。そして、こういった人たちの状況をみると、①で示した高卒正規就職で働き続けている人たちよりも、③で示したフリーターの人たちの方がむしろ多くなっています。もちろん、そこから正社員に移っていく人たちもいるのですが、不安定な働き方をする若者たちは確実に増えています。

あなたがフリーターになるのは、運悪く就職先や進学先を離れてしまったためかもしれません。ここで、あなたが仕事を得るための切り札としての大学卒業という学歴をもたず、履歴書に書けるような職の経歴もない状態で、20 代を迎えたと考えてみて下さい。そうなると、職探しでは同じフリーターに勝つことはあっても、②で示した大学進学した人たちにはなかなか勝つことが難しく、得られる仕事は限られ、労働条件も悪くなってしまいます。しかも、仮に正社員の採用が少ない社会の状態がこのまま続くとすれば、この厳しい条件のもとで働き続けなければならないのかもしれません。

これらを見ていると、学歴はあくまで一つの基準であってみなさんの全ての価値を決定するもので

はありませんし、正直「たとえ学歴がなくても私は生きていくことができるような……」と思う人もいるかもしれません。

しかし、学歴は無限の可能性をもっていると言えます。みなさんにとって学歴は味方になることもあれば、学歴差別といった敵になることもあります。それはどう転ぶかはわかりません。一寸先は闇、学歴がどう影響するのかということが初めてわかるのは将来です。その時になってみないとわからないものなのです。今は将来の自分がどうやって生きていっているのかなんてわかりませんが、進学をすればするほど、みなさんの未来への可能性は広がっていくということは確かです。その例としてここでは、今まさに私が通っている大学について話をしていきましょう。

大学は二つの役割をもっています。一つは教養を高めることと、もう一つは卒業してから社会人として働くための専門的な知識・技能を身につけることです。未来の自分が就職した際良い仕事に繋げられるよう、先ほどもあったように社会人としての質を高めるため私たちは大学へ行き、日々学んでいるのです。

また大学における教育は、社会に出て自分が問題を見つけて戸惑ってしまった際、それを自分で考え行動し答えを見つけることができるような問題解決の準備としての基礎を知るものとして、存在しているのではないのでしょうか。

小学校、中学校、高等学校も同じです。社会に出

てからは、今までのようにはいきません。皆さんが年を取れば取るほど“責任”という言葉が冷たく重くのしかかってきます。「辛いことや悲しいことがなく、幸せばかりの人生だ」なんていうことは、残念ながらないわけです。あるとすればよほど運が良い人か、ひたすらポジティブ思考な人なのでしょう。とにかく、失敗はどこかで必ず起こりますし、同じように成功もどこかできっと起こります。

私たちは若い時により多くこの表裏一体の経験を積んでおくことで、社会に出てたくさんのことを経験する際、過去での失敗と成功から学んだものをそこで活かすことができるのです。

そのためには段階を踏んで、今の自分にあった学校へと行かなければなりません。たとえば、いきなり小学生の子が「そうだ、大学へ行こう」と軽はずみな思いつきで行こうとすれば、そこは単純な話でよっぽどな秀才でなければ行くことは難しいでしょう。その大学に行くために、まずは小学校でいろいろな経験をし、知識を積み重ねていなければなりませんよね。みなさんの場合も同じで、中学生の人はまず中学校で学ばなければなりませんし、高校生の人もまずは高等学校で学ばなければなりません。言わば、学歴は将来のための自分の道をつくっていくための手助けとなるものなのです。

また、学歴には二つの見方があります。それはどこまで進学するか、どのような学校を卒業するのかということです。学生としての自分がもっとふさわしい教育を受け、将来のために教養を高めるためにはどうすればいいのか、これから学校に通いながら

考えていかなければなりません。

しかし、その裏にはさまざまな問題が隠されているのをみなさんは知っていますか？　この学校における問題を“教育問題”といいます。学ぶ意欲がなかったり自分の意志で行動しようとしなかったりする子どもが増加していることもそうですし、また、学級での崩壊や校内暴力、不登校が増加していることなども、こうした教育問題として学校に存在しているのです。

私たちの周りにはどのような学校の教育問題があるのでしょう。あなたの学校では、その問題がないと言い切ることができますか？　いじめは起きていませんか？　お互いの居場所を無くしあっていませんか？　また、最近の学校ではどのような事件が起きているのでしょうか。

自分と学校について考えながら、「学ぼう！学校とネット社会」を読んでいってみて下さい。

学校が抱えるいじめと不登校の問題

さて、前章のラストで述べられた教育問題ですが、本章ではその中でも読者のみなさんに近い問題である「いじめと不登校」について考えていきましょう。

みなさんは既によく知っているかと思いますが、内容に入る前に、まず不登校といじめについてそれぞれの意味を確認しておきましょう。

不登校とは学校に登校していない状態の事を示します。原因は大きく分けるとすると学費を払えない等の経済的な事情、病気で登校することが出来ない等の健康面での事情、学校に行くことが苦痛で登校出来ない等の精神的な事情があり、特に最後の精神的な事情での不登校が多いとされています(本章でも主にこの原因に焦点を当てて話を進めていきます)。

次にいじめとは「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」と定義されており、簡単に言えば友達同士等「一定の人間関係」のうちで心理的・物理的な攻撃が加えられ、加害者が嫌だと思っている、つまり「精神的な苦痛」を感じているものの事を示します。

一般的に言われている『いじめ被害が不登校を生む』というかたちで一見、この二つの問題は深く関係しているように見えますが、実際はどうなのでしょうか？

今回、某家庭教師センターで不登校支援を担当している佐藤さん(仮名)にお話をうかがえる機会を得る事が出来ました。

―――佐藤さん、今日はよろしくお願いします。

こちらこそ、よろしくお願いします。

―――それでは早速、今回のテーマとなっている『不登校といじめ』の、まずは『不登校』についてお聞きしたいと思います。佐藤さんが現場で感じた中で不登校にはどのようなタイプがありますか？

不登校のタイプですか、個人差もあるので一概には言えないのですが大まかに分けると『引きこもりタイプ』『活発タイプ』『無気力タイプ』がありますね

―――3種類ですか、それぞれのタイプについて説明していただけますか？

まずは『引きこもりタイプ』から説明します。このタイプの生徒は文字通り何らかの理由で引きこもっている状態で、自室や自分のスペースから全く出てこない。出てきても短時間の場合が多いです。限られた人間としか話さない事がほとんどなので、案件の中でもこのタイプの子は特に仲良くなるまで苦労します。

おそらく一般的なイメージでの不登校はこのタイプと同じように家の自室に閉じこもって外に出てこない。自分の殻に籠っている。というイメージが強いのではないかと思います。

―――確かにドラマやマンガを見ても、不登校の子供はそのように描かれている場合が多いですね。

実際はこういったイメージ通りの不登校の子は

あまりおらず、これから説明する『活発タイプ』『無気力タイプ』の生徒さんが多いですね

―――ではその 2 種類の不登校のタイプについて説明をいただけますか？

『活発タイプ』も文字通りで、活発で家庭教師に行っても最初からよくコミュニケーションを取ってくれる生徒さんの事です。自室を含め自分のスペース等を持っていても特にそこに執着するような傾向も見られず、ご両親を含め他人ともよく話すので一見すると『何故この子が不登校なの？』と思うような子が多いです。

―――先程の『引きこもりタイプ』のような一般的なイメージの不登校とはずいぶん違いますね。

このタイプの子は勉強にも積極的で、学校以外なら外に出たりする事にも抵抗が無いのでセルフエスティーム(自己肯定感、自分自身に対するプラスの感情)の向上もしやすいです。しかし不登校の原因が一見でわからない分、接している時の雰囲気に反して復学まで時間が掛かる場合もあります。

―――なるほど、では最後に『無気力タイプ』ですね。よろしくお願いします。

はい、『無気力タイプ』は文字通り……全て文字通りですね(笑)無気力や無力感から不登校になっている生徒さんですね。『学校に行きたくない』というよりも『何もやりたくない』の一部に不登校が入っているような感覚だと思ってもらえればわかりやすいかと思います。

―――『何もやりたくない』ですか、無気力や無力感というのは『学校なんか行っても意味がない』というような感じですかね？

逆に言えば『意味がある事はやりたい』と思っている子が多いので、このタイプの子にはまず勉強ではなく将来の夢や自分の近い未来の話をして、目的を持たせてあげる事を第一にしています。学校も『意味があれば行く』という考えの子がほとんどなので打ちとければ復学が一番早いタイプであるともいえます。

―――なるほど、無力感や無気力感を覆してあげるわけですね。

不登校になる原因は各個人で様々ですが、たとえ同じ理由でもそれがどのような『不登校』になるのかはそれぞれで変わってきます。『無気力タイプ』の子の不登校が長期化して『引きこもりタイプ』になったり、『引きこもりタイプ』の子が不登校中に発見した趣味を通して『活発タイプ』になり、復学を果たしたりもします。

―――多少のタイプがあるにせよそれに囚われずそれぞれに合った対応が必要という事ですね。そういえば、最近は不登校支援の体制も整って来ましたね。

まだまだ数は少ないですが、子供のコールセンターや学校の代わりとなるフリースクール、我々のような不登校専門部署のある民間の教育機関もあります。先程の例は全て復学した例を挙げましたが、最終的に学校に行かなくても進学する機会や教育を受けられる機会はあるので現在不登校の子達には選択肢の一つとして是非知っていただきたいです。

―――それでは次に不登校の主な原因に一つとされているいじめですが、これにはどういったものが

ありますか？

いじめですか。いじめは暴力行為をはじめ無視・仲間はずれにするといった精神的なものや物を隠す・盗む・金品を要求するといった金銭的なものなど様々な内容があり。それらの原因も喧嘩から発展しただとか、悪ふざけから始まっただとか、特に意味がなくたまたま発生しただとか……同じくいろいろなものがあります。家庭教師をしている時にも生徒からよく聞きますが、全部言いだしたらキリがないです。

―――確かに、いじめの発端や手口はとても多いですからね。では、いじめの原因にはどういったものがあるように思いますか？

はい、いじめの原因は複数のケースがあり、主に「いじめる側の面白半分のストレス解消」「被害を受ける側の生徒の生まれ・出身・容姿等、努力では回避出来ない原因」「被害を受ける側の生徒が問題行動を起こした等、行動しだいで回避出来た原因」があると考えられます。

まず先の二つ、「いじめる側の面白半分のストレス解消」「被害を受ける側の生徒の生まれ・出身・容姿等、努力では回避出来ない原因」についてですが、これは完全にいじめを行う側の生徒の自分勝手な欲求不満やいじめを行う事によるストレス解消に根ざしている単純なものです。

問題はいじめ開始時にいじめられた生徒に原因があった場合、「被害を受ける側の生徒が問題行動を起こした等、行動しだいで回避出来た原因」で始まったいじめです。

もちろん、原因がいじめられる側が問題行動をし

たからといっていじめを正当化する理由にはなりませんし、いじめに発展した時点で……やり方が悪質だったり期間が長くなっている場合は特に、加害者側が悪いのですが、いじめられた側の生徒の行動に原因があった分、今後のいじめの予防やその子自身のためにいじめられた側の生徒が改善するようにしなければなりません。

そうしなければ、いじめた側に不平不満や不平等感が残り、最悪の場合いじめが再発する事もあります。

さて、原因について色々述べましたが私にはいじめには共通点があるように思えるのです。

―――いじめ自体は加害者側が悪いとして、原因には被害者側が悪い場合もあるという事ですね。その共通点というのは何ですか？

それはいじめが行われている教室や学校が『閉鎖的な空間』であるということです」

―――閉鎖的な空間、ですか。

物理的な閉鎖というわけではないですよ(笑)今や大学ですら全入と言われている時代、義務教育である小中学校はもちろんの事、高校も含めて『教育を受けないといけない』という制限の中、クラスという一定のメンバーで1日の大半の時間を、それも1年以上の長期間を過ごす事を強いられるわけですから。それはもう立派な精神的な閉鎖空間だと思います。もちろん、仲良くなる人も出てくれば性格や色々な事が原因で仲が悪い人も出て来る。

―――美徳や最善とされていますが、みんながみんな仲良くしようっていうのは中々難しいですからね。

問題は、仲良くするのが無理となった場合に簡単に無視や攻撃に走ってしまう事なんです。低年齢層の場合は特に多く、からかいや暴力、関係を切るはずの仲間外れにする場合にも『お前、仲間外れな』と直接言いに行くように自分からいじめる相手に関わっていく『積極的ないじめ』が大半です。先に述べていた「いじめる側の面白半分のストレス解消」「被害を受ける側の生徒の生まれ・出身・容姿等、努力では回避出来ない原因」の二つのどちらかが原因である事がほとんどですね。これは気に入らない相手にするほかに『こいつなら大丈夫だろう』という下に見た相手に対するいじめである場合も多いです。

―――わかりやすいいじめですね。

代わりに、年齢層が高くなっていくにつれて労力が掛からない無視や、腫れもののように扱うタイプの『消極的ないじめ』が多くなってきます。

―――『積極的ないじめ』に『消極的ないじめ』ですか……。

大学のように自分で時間割が組め、生活スタイルがそれぞれ違って自分で選べるようなモノになれば『関わらない』という選択肢も出るのですが、教室のような閉鎖的な空間に強制的に閉じ込められていれば無理もないのかもしれません。

―――まあ、大学に入ったらゼミ等の特殊な場合を除いて『嫌いな相手は無視』というより関わらなければいいだけですからね。

仕事に就く前にこれをよく覚えておいて欲しいんですが、その証拠に大学に入ったら『関わらない』で済むいじめは社会に入ったら『会社』『仕事場』

という閉鎖空間によって復活するんですよ。

――よく覚えておきます。最後にいじめの対策について佐藤さんが思っている事を教えてください。

私が考えるいじめの対策は予防と早期発見ですね。いじめの詳細がわかれば原因を考えて先程述べたように手を打てますが、重要なのはそもそもいじめを発見し、いじめがあるとわかっていないとどう対応すればいいかわからないからです。

いじめが起こった時点で被害を受けた子のダメージは計り知れないものになるので、そもそもそれを起こさない、予防するのがベストないじめの対策ですね。

子供達のいじめの早期発見、ましてやいじめが起こりそうかどうかを判断するのは簡単な事ではありませんが、教師や親や、いじめに関係している子供達の身近な人がこの能力を持っている事はいじめに対して大きな意味を持つと言えると思います。

――いじめをそもそも起こさない。起こるような環境にしないのが大事という事ですね。今日は貴重なお話をありがとうございました。

さて、本章では不登校・いじめの各内容、それぞれの原因についてのインタビューを書いていきましたが、これらは現代の情報化社会において具体的にはどのように変化しているのでしょうか？　次の章で少し検証してみましょう。

中高生が気軽に使えるようになった インターネット

前の章で見てきた不登校・いじめは今、インターネットの普及によって新しい問題を生み出しています。インターネット上は、悪く言えば学校の中やその周辺とは違い親や学校の先生などから目の行き届かないあまり監視されない環境です。インターネット上のウェブサイトの掲示版や SNS などに携帯電話やパソコンを使い、ネットの匿名性をいかして、罪悪感なしで特定の人物に軽い気持ちで誹謗中傷するなどのいじめが起きています。近年はこのようなネットいじめが増えてきています。掲示板や SNS などで本人の知らないところでいじめが広まり、それがきっかけで人間不信になり不登校になるケースも多くあります。まず今までと現在のいじめの質の変化について考えていきましょう。

今までのいじめは現実に起こるいじめであるのに対して、現在のいじめはネットいじめに見られるようなインターネット上のように現実では起こらないいじめも増えてきています。これらのいじめの異なる点を挙げていきます。

・体力、肉体的な力の差は関係がなくなる

腕力などの体力的な強さはネット上では関係なくなるため、ネット上では力の弱い者でも誰でも相手を精神的に傷つける事ができる。

・家に帰ってもいじめが起こる

いじめの多くは学校で起こる事が多く、家に帰ると一時的にはいじめから開放されるが、ネットいじめの場合はいつでもどこでもいじめが起きる可能性がある。

・いじめの記録が残る

携帯電話などでいじめの現場が撮影され、写真や動画がインターネット上にアップされた場合、簡単に保存ができ、一度削除されたとしても何度もアップロードしなおされたりすることも考えられるため半永久的にいじめの記録は残る事になってしまう。

・第三者にいじめの現状が見られる

いじめている加害者、いじめられている被害者という関係だけではなく不特定多数の第三者にいじめの様子が見えてしまう。このことによって被害者に精神的な負担が余計にかかることもある。

・身近な人がいじめに気づきにくい

第三者がいじめの状況をのぞくことができるが、しかし親や学校はインターネット上でいじめが起こっても気づきにくい。いじめを発見しても場合によってはそれをとめることは難しい。

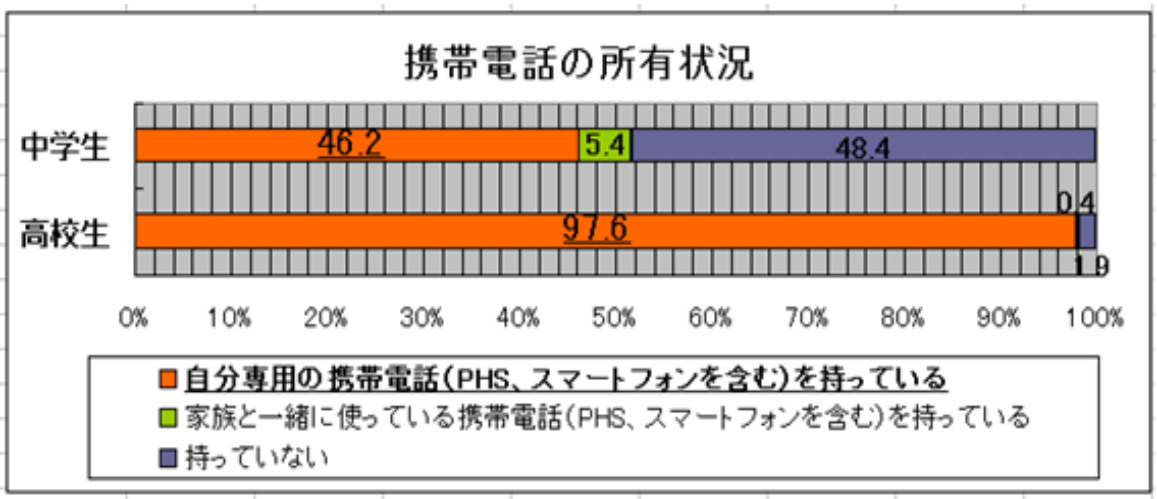
・匿名性によって加害者が有利

現実に起こるいじめよりも犯罪として発覚して逮捕されるリスクもネットいじめのほうが低く、また匿名性によって個人を特定するのが難しい。

このようにネットいじめは現実で起こるいじめとは違った面がいくつもあります。ネットいじめの例としてはブログなどに無断で実名や、個人が特定

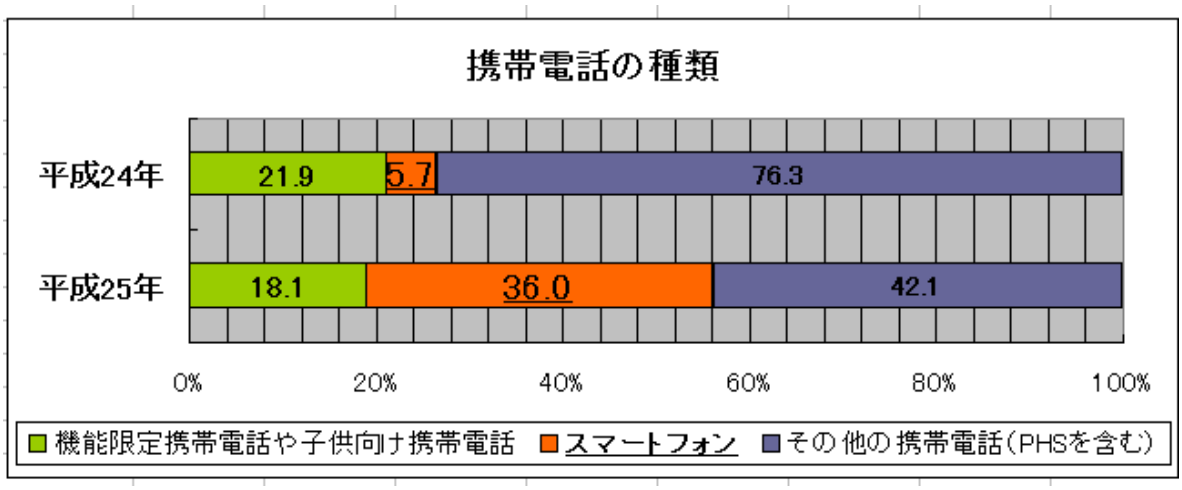
できる表現で写真などの個人情報を載せいじめの対象とするケースや、無料のメールアドレスを使ったり匿名の掲示板で他人に成りすまして誹謗中傷したりするケースなど、インターネットの普及によって新しいタイプのいじめが生まれてきています。

では次に、実際に中学生や高校生にどれくらいインターネットが普及しているか見ていきましょう。中学生や高校生が普段よく携帯電話やパソコンでインターネットを使う事が多いでしょう。平成 24 年に満 10 歳から満 17 歳までの青少年を対象に行った調査によると、青少年による携帯電話などを使ってのインターネット利用が定着していることがわかります。自分専用の携帯電話(PHS、スマートフォンを含む)の所有率は、中学生は 46.2%、高校生は 97.6%。そのほとんどが携帯電話でインターネットを利用しています。



(参照:『内閣府　平成 24 年度
青少年のインターネット利用環境実態調査』より
http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h24/net-jittai/pdf-index.html)

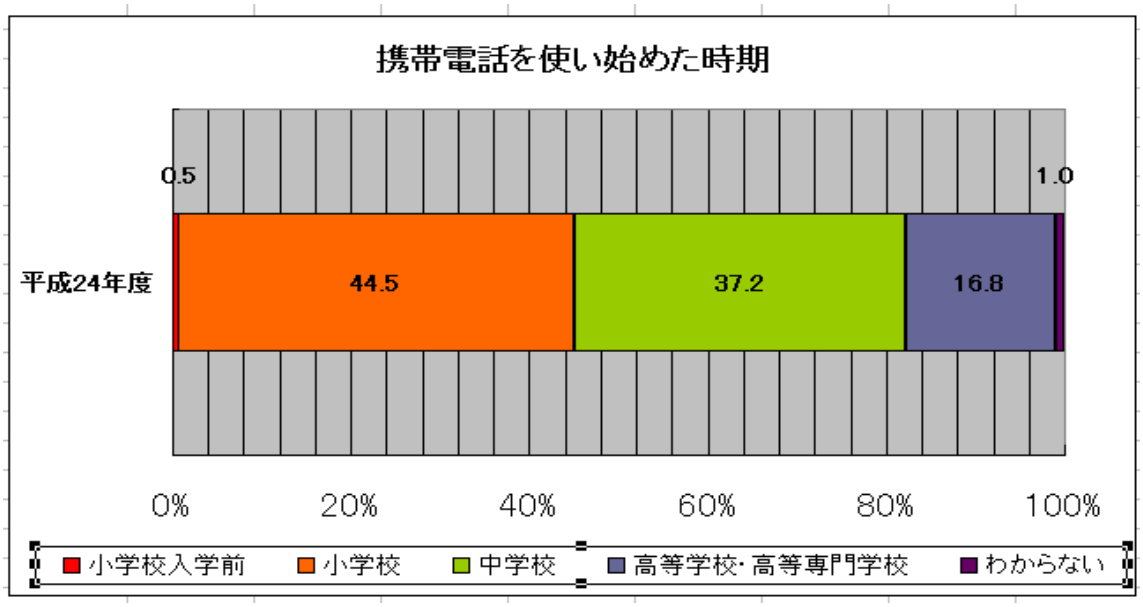
1999 年に携帯電話にインターネット機能が加わり、またパケット定額制が導入されたことによって、中高生が自分でブログを立ち上げたりできるようになった事でネットいじめが増加しました。携帯電話におけるパケット定額制とは、画像を添付したメールの送受信や着信メロディーのダウンロードなどのデータ通信を使用したときに発生するパケット使用料の上限を決められる制度です。この制度の登場によって一定の料金でデータ通信を使用する事が可能となったため、携帯電話でのインターネットの使用が大きく増える事になりました。また、パソコンが使えない子供でも親の目を避けて自由にインターネットに接続する事が可能になりました。「スマートフォン」の普及率が平成 23 年度の調査と比べると、5.7%から 36%と大きく増加しています。



（参照：『内閣府　平成 24 年度
青少年のインターネット利用環境実態調査』より
http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h24/net-jittai/pdf-index.html ）

このことによって LINE(ライン)や Twitter(ツイッター)などを用いたいじめも増えてくることが考えられます。また、長時間録画可能なビデオカメラの機能があるためいじめを記録することが可能になりました。

携帯電話を使い始めた時期はグラフを見てみると、「小学校」が 44.5%、「中学校」が 37.2%、「高等学校・高等専門学校」が 16.8%です。



(参照:『内閣府　平成 24 年度
青少年のインターネット利用環境実態調査』より
http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h24/net-jittai/pdf-index.html)

携帯電話を持ち出す年齢が低下している事がわかります。ある程度マナーやモラルを知った中高生ですらネットいじめは起きてしまうのですから、小学生はよりいじめに歯止めがかからなくなる事が心配されます。

このように、既に中高生は携帯電話やスマートフォンといった、他人からあまり監視される事のない端

末を使用してインターネットに接続することができるようになっています。

これらのデータを見ると中高生にも広くインターネットが普及し使う機会が増えてきていることがわかると思います。便利にはなっていますが、有害な情報を見分ける能力やある程度の法律の知識、マナーなどの情報のモラルが身についていないと誤った使い方をしてしまう事に繋がってしまいます。

では近年の中高生へのインターネットの普及によるいじめで具体的にどのような事件が起こっているか見ていきましょう。

他人事じゃない！ネットトラブル

みなさんもテレビのニュースなどで聞いたことがあると思いますが、最近中高生の間でSNSやネットを使ったいじめが問題となっています。掲示板に悪口を書かれたりブログを荒らされたりと被害は様々ですが、ネットいじめは面と向かって直接言われないからこそ傷つくケースが多いようです。

といっても、ネットいじめが始まったのは最近のことではありません。前章でも出ていましたが、1999年に携帯電話にネット機能が加わり、パケット定額制が導入され中高生達も気軽にネットを利用するようになったため、掲示板やブログでのトラブルが出てくるようになりました。そして今はスマートフォンの普及によって以前よりもさらに、ネットを使う機会が増えています。そのため、ネットをめぐってのトラブルはあとを絶ちません。時には事件として、報道されるような例もあります。

2013年3月、奈良県橿原市立中学1年の女子生徒が自殺したという事件がありました。原因はいじめ。女子生徒は以前から、仲の良かった同級生の女子から無視されるなどのいじめを受けており、自殺をする直前には無料通信アプリ「LINE」に悪口も書かれていました。グループ内でチャットや写真などのやり取りができるLINEですが、女子生徒は自分だけメッセージが読めないようにされ、そこで悪口を書き込まれたそうです。女子生徒が自殺したことを受けて、中傷していた女子は「私のせいや。私も死んだ方がいいんかな」と書き込みましたが、通夜のとき女子は「お通夜NOW」と書き込みをしました。

関東地方の高校に通っていた無職男性(19)は、3年生だった夏休みに住み込みのバイトをし、帰宅して1カ月以上放置していたスマートフォンを見て驚きました。「お前はこじき」「○○高のカス」などの悪口がLINEに書き込まれていたのです。大学受験を控えながらバイトに精を出す姿勢を批判されたそうで、その後も複数の掲示板に悪口を書かれていたことに気づきました。掲示板はLINEと違って誰が書いたのか分からないため、さらに精神的に追い詰められ、人間不信になってしまいました。結局男性は受験をあきらめ、今でも人の目を見て話せないといいます。

この2つの出来事は少し極端な例ですが、この他にもネットいじめが原因の事件は多数あります。その中でも最近よく挙げられるのがLINEをめぐってのトラブルです。先に述べましたが、LINEはメンバーを指定してグループでやり取りができる通信ツールです。

「全国webカウンセリング協議会」の理事長の安川雅史(やすかわまさし)さんによると、よくあるトラブルがグループ内で仲間はずれにされること。グループ内のメンバーに強制退会させられた、ブロックされた、グループに入れてもらえない、などのいじめが多く起こっていると言います。「今のいじめの風潮は、集団対一人。一対一でやりとりするメールと違い、ラインはいじめにぴったりのツール」安川さんがこう言うように、LINEは現実での普段の会話のようにやり取りすることができるため、LINEの世界が現実

世界に反映されやすくなるのでしょう。

そのため、いじめに発展する。その上、顔を直接合わせて会話しないため、口で言うよりも軽い気持ちで悪口を書き込んでしまうということもあるはずです。

これはLINEだけでなく他のSNSにも言えることです。学校裏サイトなどの掲示板に悪口を書かれたり、Twitter上で名前は出ていないけれどあきらかに自分のことを言われたりと、ネットいじめのツールは色々あります。

特に掲示板でのいじめは以前から問題にされています。LINEでの書き込みは誰の書き込みかは分かりますが、バイトを非難された男性のように、匿名性の掲示板で悪口を書かれると誰が書き込んだか分からないため疑心暗鬼になり誰も信用できなくなるという状況に陥(おちい)ってしまうことがあります。また、書き込む言葉もきつくなってしまうのも匿名性の怖いところです。

ネットやSNSは遠く離れた相手ともコミュニケーションをとることができ、便利でとても楽しいものですが、使い方を間違えれば相手を傷つける道具にもなり得る非常に危険なものです。自分は大丈夫と思っていてもいつトラブルに巻き込まれるか分かりません。ネットやSNSを使う時は、そのことも頭に入れて使う必要があるといえるでしょう。

人と繋がるネット社会

ここまで読むと、LINEやTwitterは悪いものだと感じる人もいるかもしれませんが、そうとは限りません。良い面もたくさんあります。

LINEは複数の人と話し合ったり相談したりするときにとても優れており、メールでいう一斉送信のようなグループトーク機能は何人かで待ち合わせをするときなどにとても便利です。私達も本書を作る際にLINEを活用しました。「この部分はこの言葉でいいのかな？」と迷ったら、グループトークで書き込みます。するとそれに対して「こうするといいよ」という意見をもらったり、それを見た他のグループメンバーが「こっちのほうがいい！」と言ったりします。

メールと比べてひとつひとつ開く手間が省けますし、やりとりがひとつの画面で表示されるので、スクロールで簡単に会話をさかのぼることができるのもいいですね。

LINEやTwitterの他に、ネットの代表的なコミュニケーションツールとしてmixi(ミクシィ)やFacebook(フェイスブック)などもあります。これらのツールは見知った友達と連絡をとったり交流したりするのにも役立ちますが、最大の利点は“友達の輪を広げられること”であると思います。

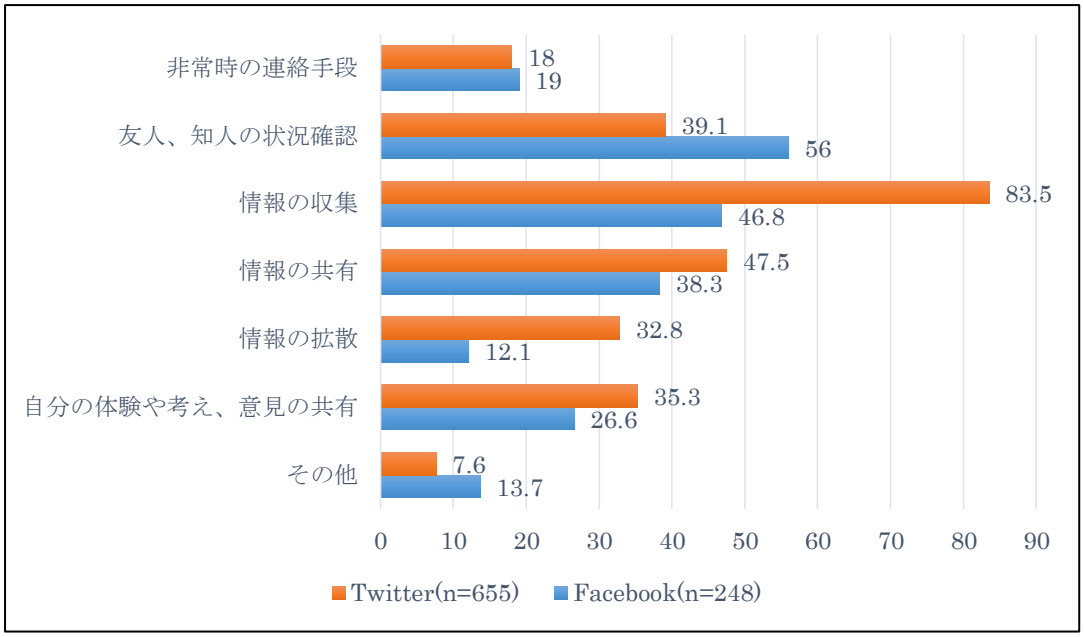
私はこの夏、ひとりで大阪から九州に行きました。目的は旅行です。九州ではネットを通じて知り合った友達と事前に会う約束をしていて、観光地やお店に案内してもらったり家に泊めてもらったりと、と

ても楽しい時間を過ごしました。

その友達とはTwitterで知り合い、趣味が合うということで話をするようになりました。Twitter上で頻繁に交流したりSkype(スカイプ)やLINEといったサービスで通話したりもしていたので、実際に会ったのは初めてでしたが、初対面とは思えないほど打ち解けて気楽に話すことができました。

このように、ネットは調べるための道具というだけではなく、他者と繋がれるコミュニケーションの場でもあるのです。

また、これらのツールは災害などの緊急時にもさまざまな便利な使い方ができます。



(参照:『MarkeZine』地震発生時に「役に立った」、ツイッター79%、フェイスブック62%
http://markezine.jp/article/detail/13591)

この表はTwitterやFacebookを東日本大震災より前から利用していた人達に、地震発生から72時

間以内にそれらをどのように利用したかを尋ねたものです。

もっとも目立つのは「情報の収集」ですね。特にTwitterを「情報の収集」に活用した人が多いようです。ネットの情報はテレビやラジオよりも膨大で、ガセやデマといった事実ではない情報が広まったり、故意に誤った情報を流したりする人もいます。しかし、テレビやラジオのように情報の統制や発言が制限されるということがなく、またそれらのメディアより遙かに多くの人の意見を知ることができます。

Facebook では「友人・知人の状況確認」が上位にあがっており、震災後非常に繋がりにくくなっていた電話の代わりにもなったと言えそうです。実際に震災のとき、被災地にいる友達の安否を確認する手段として SNS のブログやメール機能を利用した人も多いようです。「電話や E メールでいいんじゃないの？」と思うかもしれませんが、電話や携帯端末のメールはスマホや携帯電話が壊れてしまったり充電がなくなると、見たり受け取ったりすることができません。SNS はネットの繋がる環境であればどこででも見ることができるため、自分の ID やパスワードなどを覚えていれば、お父さんお母さんの携帯電話やインターネットを利用できる公共の場所(学校や図書館などのパソコン)でも見ることができるのです。

伝える側と情報を受信する側の両方がその Web サイトやサービスを利用していることが条件になりますが、それさえ満たせば少ない手間で大勢の人に情報を発信でき、電話や E メールより確実な方法

であるとも言えます。

いかがでしたか？　ネットはとても便利で優れた面がたくさんあることを知ってもらえたと思います。しかしこの本でもいくつか取り上げましたが、いじめやネット依存症による不登校など、問題が多いのも事実です。このようなトラブルを避けるためにもネット上でのマナーを知っておく必要があります。

最近ではあまり聞かなくなりましたが「ネチケット」という言葉があります。これはネットとエチケットを組み合わせた言葉で、ネット上でのマナーのことです。具体的には人の悪口を書いたり、他人のことを考えずに書き込んではいけないというようなものです。そのほとんどが“当たり前”で現実の世界にも当てはまることなのですが、ネットではその当たり前のことができていない人が多いのも現状です。

ネットが身近になった今だからこそ、ネチケットをしっかり守り、ネットを正しく利用することが大切なのではないでしょうか。

これからを生きていくあなたへ

私たちは決して、プロの政治家や教育者ではありません。だから、みなさんがこれからどうやって生きていけばいいのか教えることは出来ません。

でも、人生のちょっとした先輩として伝えられること、伝えたいことがあります。それは、今みなさんが生きている社会のこと、そして今みなさんが学校へ通っている意味を考えてほしいということです。今までの章で話したことを思い出しながら一緒に考えていきましょう。

まず初めは、私たちの社会についてです。第二章でも説明した、大学を卒業した人たちのほうが中学、高校を卒業した人たちよりも優遇されている社会。この社会がどんどん進んでいくと、いわゆる「学歴社会」というものになります。

「学歴社会」とは、会社の面接や仕事、いろいろなところで評価してもらうとき、「どういった人間なのか」ではなく、「どんな学校を卒業したのか」といったものを基準に評価されてしまう社会のことです。言ってしまえば、高学歴な人はみんな優秀で偉い、といった考えがまかり通る社会なんです。前の章で話したように、日本の会社の多くは、高校卒業者と大学卒業者の給料などの扱いでとても差があることから、学歴に対しての偏見があることがわかりますね。

でも、学歴は自分たちの努力と能力で手に入るので、階級社会(例えば、江戸時代のように農民の子は農民に、商人の子は商人になる、といった将来が

決められている社会)みたいに最初から結果が決まっている社会とは違って、全員に“受験”というチャンスの平等が与えられています。そのため学歴社会は「一人一人の頑張りで手に入る能力で社会に認めてもらえる」という点では格差社会や階級社会よりは、断然マシな社会ともいえますね。

ここでいったん日本を離れて、アメリカについて考えてみましょう。アメリカは日本以上の学歴社会です。アメリカには様々な民族が住んでいます。以前、アメリカでは黒人や白人といった人種によっての差別が行われていました。しかし「学歴社会」が浸透している今のアメリカ社会では、家柄や生まれ、肌の色などで社会階級を分けられたりしません。彼らは学歴によって社会に出ていくのです。

つまり、今のアメリカは競争による階級社会の国で、その階級は初めから存在するものではなく、勝ち取るものなのです。この階級を勝ち取る手段として、自分の力と頑張りの結果手に入る「学歴」が大きな決め手になります。

ただ、学歴と言っても、それは日本人が言う学歴――つまり、どの大学を出たかということとは大きく違っています。

現在のアメリカでは、大学を出ただけでは評価されず、どの大学やどの大学院で何の学位を取ったかが重要になり、この点でも、アメリカのほうが日本よりもレベルの高い「学歴社会」と言えます。

このような社会では、勉強できるチャンスさえ手に入れれば、試験という名の競争が続き、その結果、自分がどんな会社に行けるか、どんな仕事が出来る

か、決まることになります。すべての人に与えられるチャンスの使い方によって生活が決まるのが「学歴社会」なんです。

どうですか？　これが、みなさんが卒業したら待っている社会です。でも、あなたたちが知っている社会はこれだけじゃないですよね。そうです。いまあなたが読んでいるこの本。これもあなたが知っている社会、「ネット社会」です。

ネットを使うことが皆さんのなかで当たり前になっていることは今までの話から実感していると思います。そのネット社会(特に日本のもの)は「匿名性」によって作られています。

匿名とは、何らかの行動をとった人物が誰であるのかがわからない状態を指し、ネット内では、書き込まれたものが誰のものかわからない状態のことをいいます。有名な匿名のネットサイトとしては「２ちゃんねる」があります。

多くの人は匿名性の悪い点をよく知っていると思います。それは情報の発信がしやすくなったことで「誹謗中傷」や「詐欺」などの犯罪が起きやすいということですね。こちらも前章で話したとおり、匿名であることは話し合いやコミュニケーションの発展をしやすくする代わりに、このような犯罪をたくさん発生させる原因にもなっています。

責任の追求が難しくなるということで起こるネットの中傷や詐欺により亡くなった方々、必要以上に信用を落としてしまった会社は少なくないでしょう。色々な国で今もまだ解決しなくてはいけない社会問題です。

でも、もちろん良いところもあります。責任の追求が難しくなるということは発言がしやすく、思ったことを素直に書き込むことができることにつながります。個人の日記などブログ類、mixi や Twitter などの SNS はこれが分かりやすく現れますね。会社や学校などの影響を考えなくても発言できますし、それによって話し合いが盛り上がります。感情的になることもあるでしょうが、それは書いた人の素直な意見であり批判です。そのような言葉を聞くことができるのも匿名というもののおかげだと私は思います。

みなさんが、今生きている社会、学歴社会やネット社会がどういったものか見えてきましたか？勉強すれば、親や身分に関係なく好きな仕事をすることができて、ネットを使えばどんな人でも、素直に言いたいことを、匿名性を持って言える。一昔前までは考えられなかった自由と平等です。

でも、これは残念ながらあくまでもいいところを見た場合です。

実際は金銭面や家庭や環境などの理由で進学することが出来ない人たちもたくさんいますし、ネットによる事件が毎日のように世間を騒がしています。それでは、この社会で生きていくには、いったいどうすればよいのでしょうか？　その答えこそが私たちの伝えたかったもうひとつのこと、「学校へ通う意味」にあるのです。

学歴の大切さや、大学で学べることをたくさん教えてきました。でも、みなさんが今通っている学校

はただの大学へ進むためのステップですか？　私はそうではないと思います。

学校ではたくさんのことを学べます。それは、ただの知識ではありません。あなたがネット社会で人との繋がりを失いそうになったとき手を差し伸べてくれるのは学校の友達かもしれません。進学が出来なくなったとき、社会に出るのを手伝ってくれるのは先生たちです。そういった人との繋がりを学ぶのも学校なのです。学校でどんなことを学ぶかはあなた次第です。

そして、あなたはいつか社会に出ます。そのときあなたは学歴によってさまざまな選択肢を得ることが出来るでしょう。でも、学歴がなくても選択肢がなくなったわけではありません。学校での学びを大事にしていけば、選択肢は広がり続けるのです。今通っている学校で精いっぱいさまざまなことを学び、また新たな選択肢を見つけることがあなたの未来を切り開くでしょう。

あとがき

本書の内容は近畿大学文芸学部文学科、日本文学専攻の創作・評論コース、桑原ゼミの3回生のメンバー各々が創作・評論演習ＩＢという授業の一環として、章ごとに担当をして書き上げました。みなさんの未来について考えるきっかけとなるお手伝いはできましたでしょうか。

最後まで読んでいただき、本当にありがとうございました。

「学×働＝あなたの未来

～10代のうちに知っておくべきこと～」

2013年度 11月 28日　発行

近畿大学 文芸学部 文学科 日本文学専攻
創作・評論コース　桑原ゼミ 3回生

参考文献

＜第一章＞

- 『日本経済新聞』
  (2013年 9月 10日号)

- 『Wikipedia　国立霞ヶ丘陸上競技場』
  http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%BD%E7%AB%8B%E9%9C%9E%E3%83%B6%E4%B8%98%E9%99%B8%E4%B8%8A%E7%AB%B6%E6%8A%80%E5%A0%B4
  (2013年 11月 13日閲覧)

＜第二章＞

- 『日本日経新聞　「働く」とは他者を楽にすること」　NPO法人フローレンス代表理事　駒崎弘樹(1)』
  http://www.nikkei.com/article/DGXBZO59025490Y3A820C1000001/
  (2013年 11月 15日閲覧)

- 『バイト探しならフロムエー』
  http://www.froma.com/P02/SHRT/LIST_SH1005/ST08/
  (2013年 11月 10日閲覧)

- 『大阪労務管理事務所』
  http://www012.upp.so-net.ne.jp/osaka/keiyaku-roumukanri.htm
  (2013年 11月 10日閲覧)

- 『厚生労働省』
  http://www.mhlw.go.jp/
  (2013 年 11 月 10 日閲覧)

- 『労働契約期間の上限について』
  http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/dl/keiyaku._a.pdf
  (2013 年 11 月 10 日閲覧)

- 『労働契約法の改正について』
  http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/keiyaku/kaisei/
  (2013 年 11 月 11 日閲覧)

- 『パートタイム労働者の雇用管理の改善のために』
  http://www.mhlw.go.jp/topics/2007/06/tp0605-1.html
  (2013 年 11 月 11 日閲覧)

- 『平成 21 年度労働者派遣事業報告の集計結果(確報版)』
  http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000000tf3d.html
  (2013 年 11 月 11 日閲覧)

- 『文部科学省』
  http://www.mext.go.jp/
  (2013 年 11 月 12 日閲覧)

- 『学校基本調査 - 結果の概要』
  http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/1268046.htm
  (2013 年 11 月 12 日閲覧)

- 『NHK NEWS WEB』
  http://www3.nhk.or.jp/news/web_tokushu/2013_1021.html
  (2013 年 11 月 12 日閲覧)

- 『厚生労働省』
  http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/koyouhoken/index.html
  (2013 年 11 月 15 日閲覧)

- 『国民健康保険 よくわかるガイド!』
  http://nlkhgtbj.com/125/128/
  (2013 年 11 月 15 日閲覧)

- 『福祉のお仕事ナビ』
  http://www.fukushi-work.jp/navi/work_detail.php?eid=00004
  (2013 年 11 月 15 日閲覧)

- 『平成 18 年度年次経済財政報告第 1 節 雇用の変化とその影響』
  http://www5.cao.go.jp/j-j/wp/wp-je06/06-00301.html
  (2013 年 11 月 15 日閲覧)

- 『Wikipedia　日本経済団体連合会』
  http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E7%B5%8C%E6%B8%88%E5%9B%A3%E4%BD%93%E9%80%A3%E5%90%88%E4%BC%9A
  (2013 年 11 月 15 日閲覧)

- 『103 万 130 万の壁についての研究』
  http://tmbt.net/103130.html
  (2013 年 11 月 15 日閲覧)

- 『厚生労働省』
  http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa12/dl/02.pdf
  (2013 年 11 月 16 日閲覧)

  http://www.mhlw.go.jp/topics/2010/01/tp0127-2/12.html
  (2013 年 11 月 16 日閲覧)

- 『独立行政法人　労働政策研究・研修機構　若年者の就業状況・キャリア・職業能力開発の現状』
  http://www.jil.go.jp/institute/chosa/2009/documents/061_05.pdf
  (2013 年 11 月 16 日閲覧)

- 『厚生労働省　若年者雇用の現状・対策について』
  http://www.mhlw.go.jp/english/dl/employment_jpn.pdf
  (2013 年 11 月 12 日閲覧)

- 『Benesse　教育ニュース　教育動向「キャリア教育」が正規・非正規雇用の分かれ目に？　斎藤剛史』
  http://benesse.jp/blog/20130815/p1.html
  (2013年11月15日閲覧)

- 『内閣府　平成25年度　年次経済財政報告　第3章　経済活動を支える基盤』
  http://www5.cao.go.jp/j-j/wp/wp-je13/pdf/p03011_2.pdf
  (2013年11月12日閲覧)

- 『文部科学省　学校基本調査』
  http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm
  (2013年11月22日閲覧)

  http://tmaita77.blogspot.jp/2013/09/blog-post_12.html
  (2013年11月22日閲覧)

＜第三章＞

- 『学歴・競争・人生　10代のいま知っておくべきこと』
  吉川徹　中村高康
  発行:株式会社　日本図書センター

- 『学歴入門』
  楠木俊詔
  発行:株式会社　河出書房新社

- 『勉強するのは何のため？』
  苫野一徳
  発行:株式会社　日本評論社

- 『RENGO 日本労働組合総連合会』
  http://www.jtuc-rengo.or.jp/kurashi/kyouikukaikaku/mondai_2.html
  (2013年11月1日閲覧)

- 『Wikipedia　ネットいじめ』
  http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%88%E3%81%84%E3%81%98%E3%82%81
  (2013年10月16日閲覧)

- 『平成24年度　青少年のインターネット利用環境実態調査』
  http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h24/net-jittai/pdf-index.html
  (2013年10月24日閲覧)

- 『いじめから子供を守ろう！ネットワーク』
  http://mamoro.org/
  (2013年10月24日閲覧)

- 『ネットイジメの現状』
  http://bylines.news.yahoo.co.jp/ohmototakashi/20130103-00022916/
  (2013年10月24日閲覧)

- 『全国webカウンセリング協議会　いじめ対策』
  http://www.ijimesos.jp/
  (2013年10月16日閲覧)

- 『産経新聞』
  http://www.itmedia.co.jp/news/articles/1308/27/news044.html
  (2013年10月16日閲覧)

  http://www.itmedia.co.jp/news/articles/1308/28/news046.html
  (2013年10月16日閲覧)

＜イラスト提供＞

- 『ふわふわ。り』
  http://shimizumari.com/fuwa2li/
  (2013年11月25日閲覧)